

Kumamoto University



熊本大学概要

2012





Kumamoto University

熊本大学の校章は、熊本市の市木でもあり、キャンパス内にも多く植えられている「銀杏」がモチーフとなっています。

学内外のコミュニケーションの活性化を目的としたコミュニケーションマークは、くまもとの「く」を象っています。同時に、Kumamoto の「K」を変化させ、さらに前進していく矢印をイメージし、校旗を彩る紫紺とうこんで彩色したデザインです。伝統を尊重しながら、躍進を続ける熊本大学を象徴しています。

— 理念 —

本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、総合大学として、知の創造、継承、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを目的とする。

— 目的 —

教育

個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。

学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。

大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。

また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。

研究

高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。

また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。

地域貢献・国際貢献

地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中枢的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。

また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。

CONTENTS

組織

1 組織

| | |
|---------|---|
| 管理運営体制 | 1 |
| 教育研究組織等 | 2 |
| 事務組織 | 4 |
| 役職名 | 5 |

教育研究等

2 教育研究等

| | |
|------------|----|
| 学部 | 7 |
| 大学院 | 9 |
| 専攻科・別科 | 12 |
| 研究所 | 12 |
| 機構 | 12 |
| 学内共同教育研究施設 | 13 |
| 学外オフィス | 16 |
| 寄附講座 | 18 |
| 医学部附属病院 | 19 |
| 附属図書館 | 20 |

職員・学生数等

3 職員・学生数等

| | |
|---------------|----|
| 役員等数・職員数 | 21 |
| 学生・生徒・児童及び幼児数 | 22 |
| 入学状況 | 25 |
| 卒業後の状況 | 26 |
| 修了後の状況 | 27 |
| 学位授与数 | 28 |
| 奨学生数 | 28 |

国際交流
社会連携

福利厚生施設

4 國際交流

| | |
|-------------------------|----|
| 国際交流協定 | 29 |
| 研究者の派遣・受入れ | 30 |
| 海外派遣留学生 | 31 |
| 国際共同教育事業(短期派遣留学生交流支援) | 31 |
| 海外語学セミナー及び協定校でのサマープログラム | 32 |
| 国際奨学事業 | 32 |
| 外国人留学生 | 33 |
| 国際交流会館 | 33 |

キャンパス

熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

沿革

5 社会連携

| | |
|-----------|----|
| 生涯学習 | 34 |
| 包括的連携協定等 | 35 |
| 五高記念館入館者数 | 35 |

6 福利厚生施設

| | |
|--------|----|
| 福利厚生施設 | 36 |
|--------|----|

7 財政

| | |
|----------------|----|
| 平成24年度収入・支出予算額 | 37 |
| 科学研究費補助金採択状況 | 38 |
| 外部資金等受入状況 | 38 |
| 主な競争的資金採択状況 | 39 |

8 キャンパス

| | |
|----------|----|
| 土地・建物面積 | 41 |
| 位置図 | 42 |
| 主要施設等配置図 | 43 |

9 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

| | |
|--|----|
| | 46 |
|--|----|

10 沿革

| | |
|---------|----|
| 沿革略年表 | 48 |
| 沿革図(別紙) | |

学年暦

■ 学年開始 4月1日

■ 夏季休業 8月11日～9月30日

■ 卒業式 3月25日

■ 前学期 4月1日～9月30日

■ 後学期 10月1日～3月31日

■ 学年終了 3月31日

■ 春季休業 4月1日～4月3日

■ 開學記念日 11月1日

■ 入学式 4月4日

■ 冬季休業 12月25日～1月10日

1 組織

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

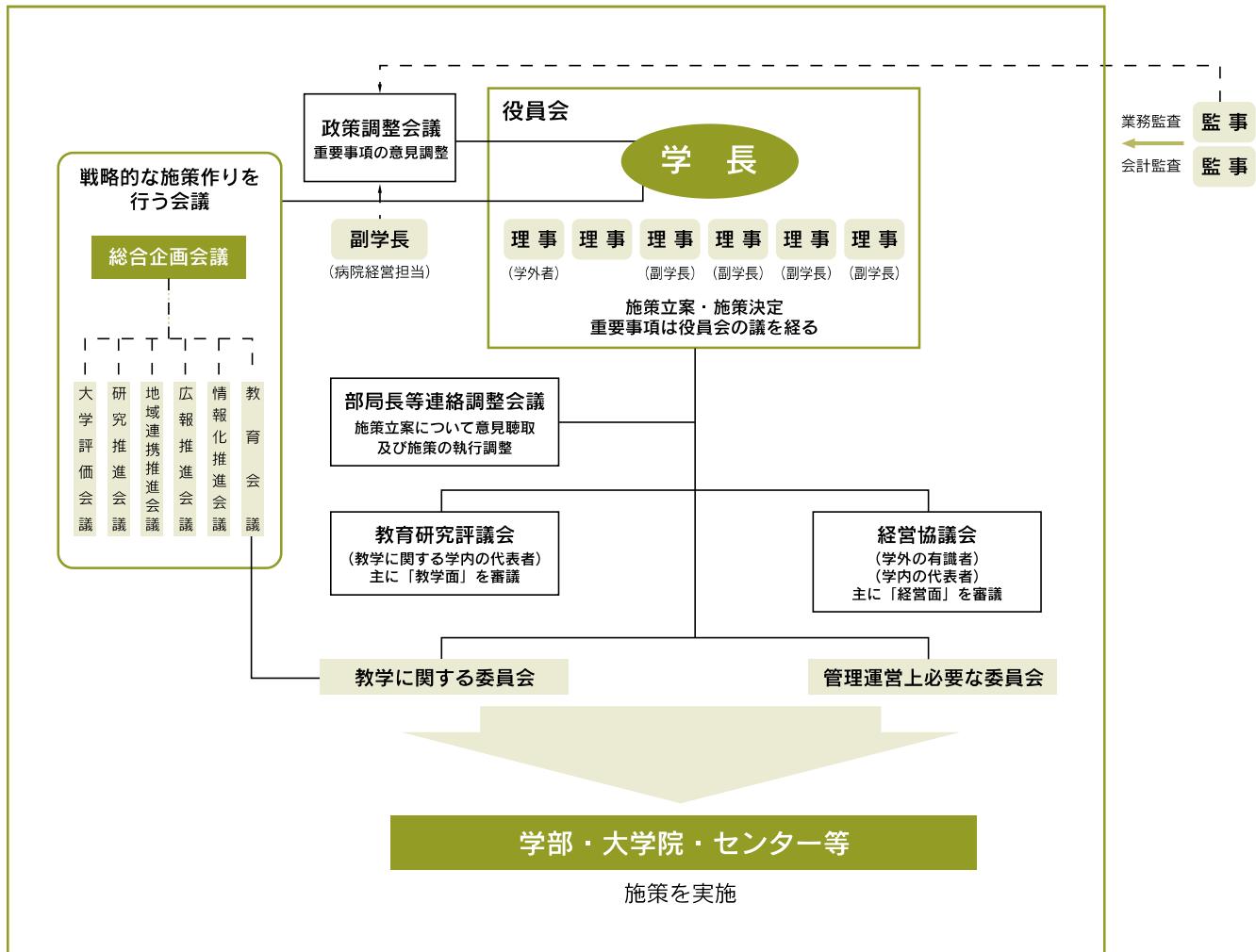
財政

キャンパス

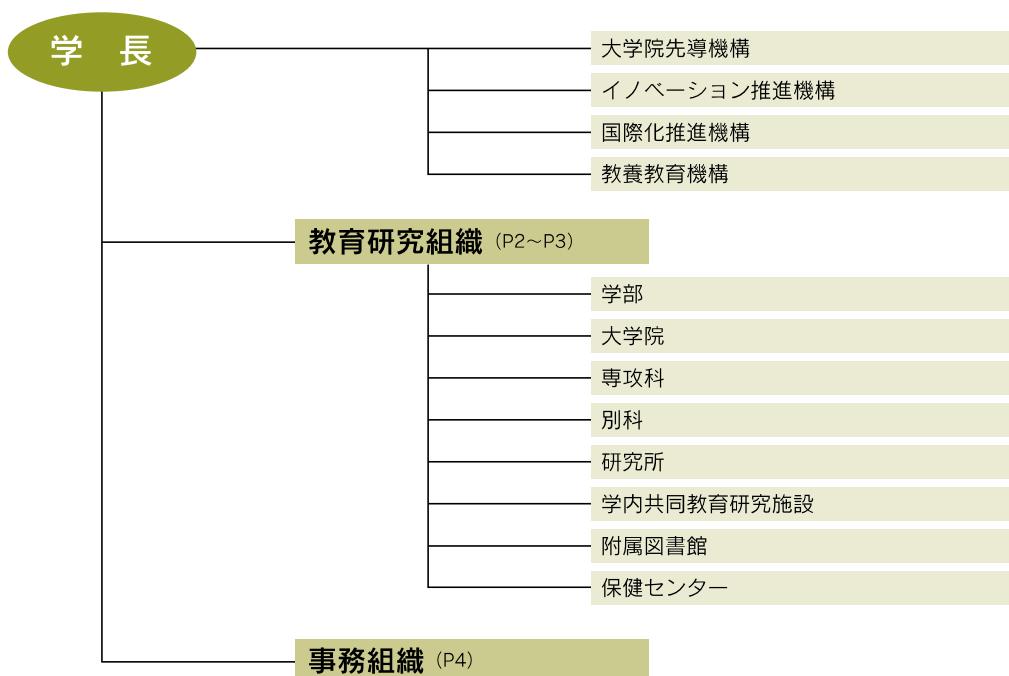
熊本大学
ユバニクシステム
沿革

管理運営体制

概念図



組織図

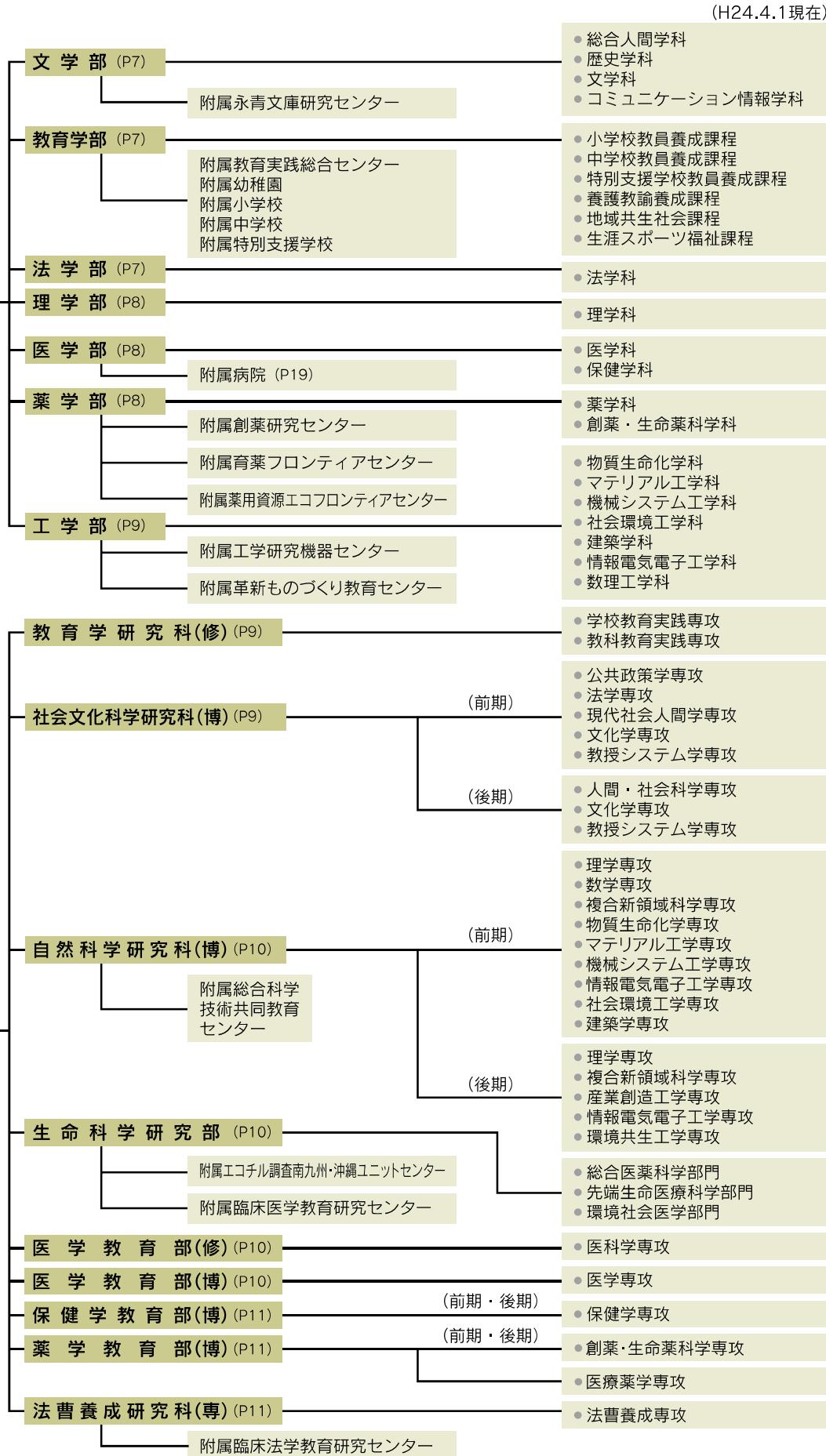


教育研究組織等

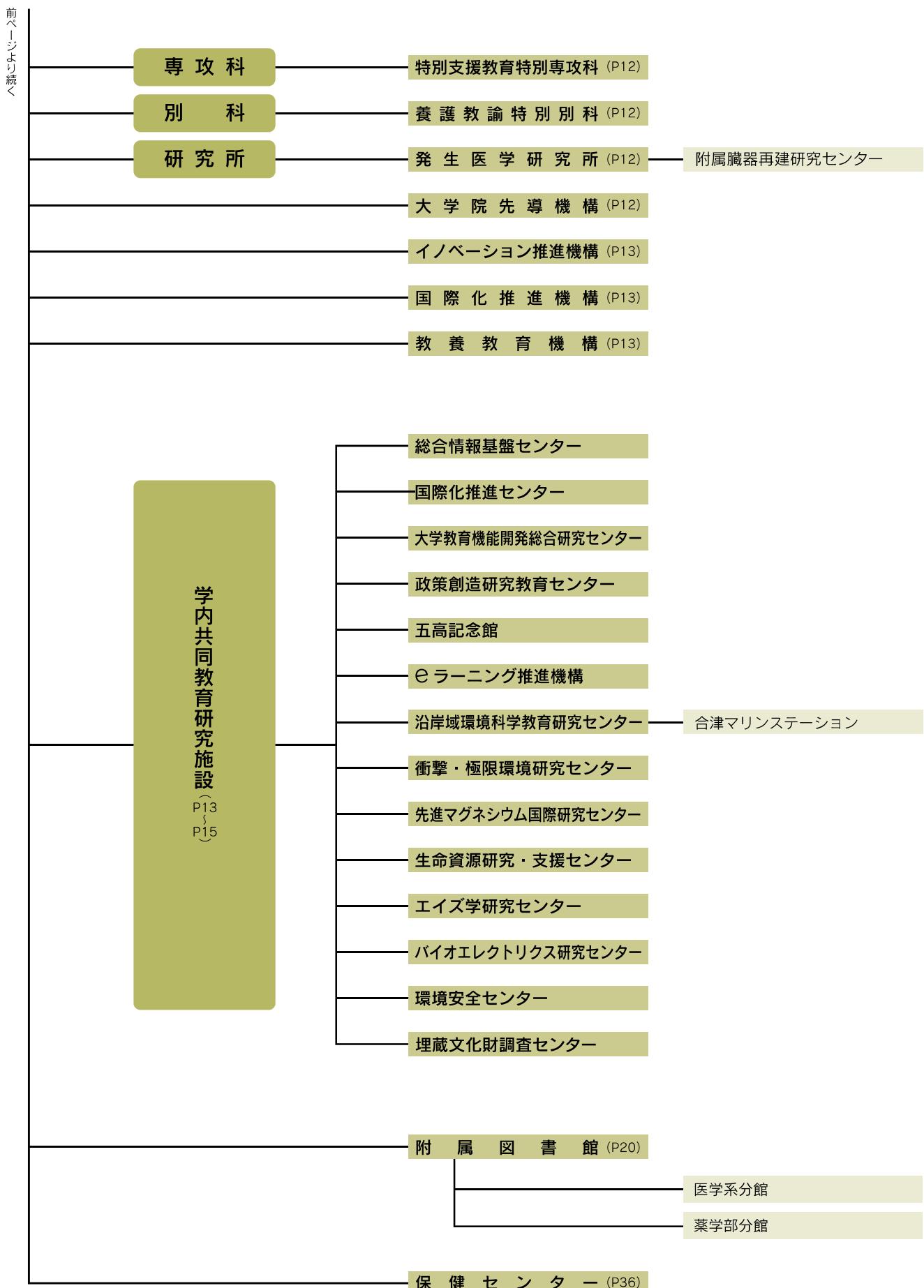
熊本大学

学部

大学院

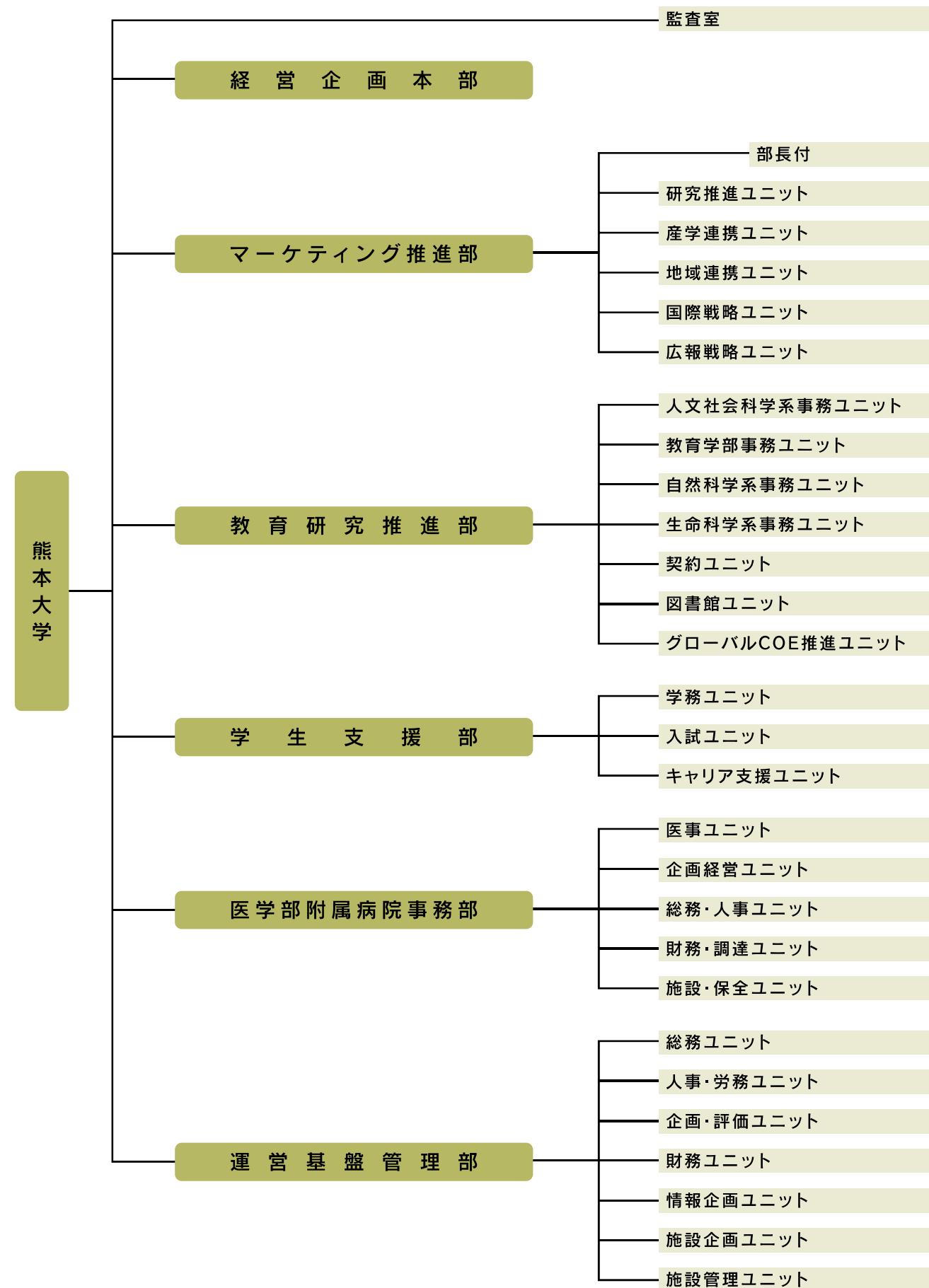


教育研究組織等



事務組織

(H24.4.1現在)



教育研究等

職員・学生数等
国際交流

社会連携

福利厚生施設
財政

キャンパス

熊本大学
ユバーンデイミュージアム

沿革

部局長等

| | |
|-------------------------|--------|
| 文学部長 | 大熊 薫 |
| 附属永青文庫研究センター長 | 甲元 真之 |
| 教育学部長 | 登田 龍彦 |
| 附属教育実践総合センター長 | 中川 保敬 |
| 附属幼稚園長 | 柴山 謙二 |
| 附属小学校長 | 河野 順子 |
| 附属中学校長 | 正元 和盛 |
| 附属特別支援学校長 | 高原 朗子 |
| 法学部長 | 山崎 広道 |
| 理学部長 | 古島 幹雄 |
| 医学部長 | 竹屋 元裕 |
| 附属病院長 | 猪股 裕紀洋 |
| 薬学部長 | 大塚 雅巳 |
| 附属創薬研究センター長 | 甲斐 広文 |
| 附属育葉フロンティアセンター長 | 平田 純生 |
| 附属薬用資源エコフロンティアセンター長 | 矢原 正治 |
| 工学部長 | 里中 忍 |
| 附属工学研究機器センター長 | 富村 寿夫 |
| 附属革新ものづくり教育センター長 | 村山 伸樹 |
| 教育学研究科長 | 登田 龍彦 |
| 社会文化科学研究科長 | 吉川 榮一 |
| 自然科学研究科長 | 高島 和希 |
| 附属総合科学技術共同教育センター長 | 高島 和希 |
| 生命科学研究部長 | 竹屋 元裕 |
| 附属エコチル調査南九州・沖縄ユニットセンター長 | 遠藤 文夫 |
| 附属臨床医学教育研究センター長 | 赤池 孝章 |
| 医学教育部長 | 竹屋 元裕 |
| 保健学教育部長 | 富口 静二 |
| 薬学教育部長 | 大塚 雅巳 |
| 法曹養成研究科長 | 橋本 真 |
| 附属臨床法学教育研究センター長 | 橋本 真 |
| 発生医学研究所長 | 中尾 光善 |
| 附属臓器再建研究センター長 | 糸 昭苑 |
| 大学院先導機構長 | 谷口 功 |
| イノベーション推進機構長 | 原田 信志 |
| 国際化推進機構長 | 谷口 功 |
| 教養教育機構長 | 山中 至 |
| 総合情報基盤センター長 | 中野 裕司 |
| 国際化推進センター長 | 原田 信志 |
| 大学教育機能開発総合研究センター長 | 山尾 敏孝 |
| 政策創造研究教育センター長 | 原田 信志 |
| 五高記念館長 | 伊藤 重剛 |
| 学習支援機構長 | 山中 至 |
| 沿岸域環境科学教育研究センター長 | 滝川 清 |
| 衝撃・極限環境研究センター長 | 赤井 一郎 |
| 先進マグネシウム国際研究センター長 | 河村 能人 |
| 生命資源研究・支援センター長 | 浦野 徹 |
| エイズ学研究センター長 | 滝口 雅文 |
| バイオエレクトリクス研究センター長 | 勝木 淳 |
| 環境安全センター長 | 小川 芳弘 |
| 埋蔵文化財調査センター長 | 木下 尚子 |

附属図書館長

保健センター長

森 正人

岸川 秀樹

事務部門

| | | |
|------------|------------------|--------|
| 経営企画本部 | 経営企画本部長 | 鈴木 武 |
| | マネージャー | 麻生 亘 |
| | マネージャー | 北村 敏夫 |
| マーケティング推進部 | マーケティング推進部長 | 今田 幸二郎 |
| | 研究推進ユニット長 | 北村 武紀 |
| | 産学連携ユニット長 | 高浜 佳依 |
| | 地域連携ユニット長 | 永田 正次 |
| | 国際戦略ユニット長 | 福村 竜也 |
| | 広報戦略ユニット長 | 西村 兆司 |
| | 教育研究推進部 | 島田 正俊 |
| 教育研究推進部 | 人文社会科学系事務ユニット長 | 江藤 竜一 |
| | 教育学部事務ユニット長 | 柚原 敬三 |
| | 自然科学系事務ユニット長 | 永田 敦 |
| | 生命科学系事務ユニット長 | 春山 英夫 |
| | 契約ユニット長 | 川口 幸一 |
| | 図書館ユニット長 | 城川 由美 |
| | G-COE推進ユニット長 | 西川 育 |
| 学生支援部 | 学生支援部長 | 岩間 吉治 |
| | 学務ユニット長 | 中村 武 |
| | 入試ユニット長 | 米納 寿孝 |
| | キャリア支援ユニット長 | 日和田 伸一 |
| 医学部附属病院事務部 | 事務部長 | 福永 重智 |
| | 医事ユニット長 | 松村 健史 |
| | 企画経営ユニット長 | 坂田 親信 |
| | 総務・人事ユニット長 | 砂山 富惠 |
| | 財務・調達ユニット長 | 城川 康博 |
| | 施設・保全ユニット長 | 藤木 政信 |
| | 運営基盤管理部 | 山下 登 |
| 運営基盤管理部 | 総務ユニット長 | 吉井 裕治 |
| | 人事・労務ユニット長(人事担当) | 布施 典明 |
| | 人事・労務ユニット長(労務担当) | 津田 則行 |
| | 企画・評価ユニット長 | 増村 隆之 |
| | 財務担当部長 | 松原 省三 |
| | 財務ユニット長 | 柳瀬 寿 |
| | 情報企画ユニット長 | 荒井 幸男 |
| | 施設担当部長 | 栗木 浩 |
| | 施設企画ユニット長 | 篠原 彰一 |
| | 施設管理ユニット長 | 佐藤 治行 |

(H24.7.1現在)

2 教育研究等

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

財政

キャンパス

熊本大学
ユバニクシステム
沿革

学 部

文学部

文学部は、旧制第五高等学校を前身とし、昭和24年5月に新制熊本大学法文学部文学科として設置されました。その後、昭和54年に法文学部を分離改組し、文学部として独立しました。現在の教育・研究組織は、総合人間学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科の4学科9の教育コースを有し、毎年170名の学生を迎えてます。教育スタッフはおよそ70名で、人間・社会・文化にかかわる23もの領域にわたって教育研究を行っています。

また、平成21年4月から「文学部附属永青文庫研究センター」が設置され、研究事業として永青文庫史資料群の学術的価値の解明と学界への提起、さらに学際的な新研究領域の開拓と組織の構築を目指し、文化事業として同史資料群の学術的・文化的価値を市民向けフォーラム、公開講座の実施等を通じて広く市民に発信するため、文化行政諸機関と連携を図り、事業を推進しています。



教育学部

教育学部は、明治7年5月開校の(県立)熊本師範学校等を前身としており、昭和24年5月の新制熊本大学が設置されたことに伴い、熊本大学教育学部として設置されました。

現在、教育学部には、義務教育関連の教員を養成する小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、特別支援学校教員養成課程及び養護教諭養成課程の4つの課程と、社会教育及び福祉等の学校教育以外の教育専門家養成を目的とした生涯スポーツ福祉課程並びに地域共生社会課程が設置されています。

また、「附属教育実践総合センター」では、教育実習関係の指導のほか、教育相談等、特に教育現場の諸問題に対する対応と実践的研究を行っています。

さらに、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校は、学部との教育・研究面で他に無い強い連携と協働により、教育実習支援校として、また九州地域の先導的なモデル校としてその役割を果たしています。

教育学部の目的は、広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教員の養成と地域社会における生涯学習等の指導者の養成であり、生涯にわたって自主的な知的探究心を培う人材を養成することを目指しています。



教育実習風景

法学部

法学部は、旧制第五高等学校を前身とし、昭和24年に新制熊本大学法文学部法学科として設置されました。その後、昭和54年に法文学部を分離改組し、法学部として独立しました。平成15年度までは法学科と公共政策学科の2学科編成としていましたが、大学院法曹養成研究科の設置に伴い、平成16年度からは1学科(法学科)2コース制(3年次から)を採用し、法学と公共政策に関する基本・基礎教育に徹することとしました。

熊本大学法学部の教育目的は、法的知識を基礎として、法のあるいは政策的に「考える力」「表現する力」「議論する力」を身につけ、現代社会に生起する具体的な問題を解決し得る基礎的能力を育成することにあります。このため1年次から4年次まで演習科目を必修として開講し、少人数で行き届いた教育を行います。



理学部

理学部は、明治20年10月熊本に設置された第五高等中学校の理科と熊本工業専門学校の一部を母体として、昭和24年5月新制熊本大学の1学部として設置されました。

理学部の学科は理学科1学科となっています。学生は、入学後の2年間で自ら適正を見極めて、志望する数学・物理学・化学・地球環境科学・生物学の5つのコースから自分の志望するコース選び、3年次以降の専門課程に進みます。また、学部スタッフによるチューター制を導入し、一人一人の学生に対してきめ細かな教育サービスを提供しています。

理学部が最も得意とする基礎研究を行う一方、地域や社会のニーズに応じた応用分野の研究にも積極的に取り組んでいます。卒業後は、半数以上が大学院博士前期課程に進学し、残り約半数の学生が教員・企業・官公庁といった進路に進んでいます。



医学部

医学部は、医学士教育課程である6年制の医学科と、保健学士教育課程である4年制の保健学科から成っています。前者の卒業生は国家試験を経て医師に、後者の卒業生は同様に看護師、保健師、助産師、放射線技師及び臨床検査技師になります。また、所定の単位を修得すると高等学校教諭一種免許状(看護)を取得できます。

現在キャンパスの再開発が進行中で、平成18年6月に附属病院中央診療棟が、平成21年4月に医学教育図書棟、西病棟に加え東病棟が平成22年9月に完成しました。さらに、平成24年3月には生命科学研究部附属「臨床医学教育研究センター」が竣工しました。今後、外来棟や臨床研究棟を整備し、充実した医学教育環境が整えられる予定です。

医学科は、明治29年の私立熊本医学校設立以来、1万人を超す卒業生を輩出しています。医学関係の専門教育は、大学院生命科学研究部の医学系教員が担当しており、先端的な医学研究や臓器別診療の枠組みを基盤とした教育カリキュラムを構築しており、リサーチマインドを持ち人間的で意思疎通能力の高い医師を育てる教育を実施しています。また、臨床医学教育研究センターには専任教員が配置され、今後さらに、本センターを中心に医学教育の強化が図られます。

保健学科は、前身の熊本大学医療技術短期大学部(専攻科助産学特別専攻を含む)と本学教育学部特別教科(看護)教員養成課程が統合され、平成15年10月に設置されました。生命や人間の尊厳に基づく豊かな教養と高度な専門知識・技能を揃え、チーム医療のスタッフとして広く社会に貢献できる資質の高い医療者、研究者、教育者を育成しています。



薬学部

薬学部では、“薬学は医薬を通じて人類の健康に貢献する総合科学である”との理念のもと、医薬品の創製・生産・管理、環境・保健衛生及び薬剤師の職能等に関わる基礎知識を修得させ、生命科学を基盤とする高度の“薬学的思考力”と倫理観を備えた創造性豊かな人材を育成することを目指し、知識・技能・態度の3つの観点から最新の講義並びに基礎実習及び臨床実習を行っています。卒業後の進路は、病院・薬局薬剤師、製薬・化学企業、官公庁など多彩ですが、卒業生の半数以上は大学院に進学し、薬学研究者及び高度薬剤師を目指しています。

平成18年度には、薬剤師養成6年制課程として「薬学科」を設置するとともに、従来の4年制学科の特色を活かした研究者養成に特化した「創薬・生命薬科学科」を設置しました。さらに、一流の創薬研究者を養成するとともに医薬品の開発を目指す教育、研究拠点として、日本初の「創薬研究センター」を設置しました。

また、平成20年度には、育薬を推進する人材育成、薬剤師の生涯教育、職能支援及び地域医療への貢献を行う教育、研究拠点として、「育薬フロンティアセンター(模擬薬局(平成21年設置)を含む)」を設置しました。

さらに、平成22年度には、薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンターを設置し、「薬の元になる薬用資源の啓発、教育・研究を推進すること」を目的に、薬用植物の栽培・育種・保護、薬用植物からの有用資源の探索、海洋資源からの機能性物質の探索などの教育・研究活動を行ない、その資源を社会に還元すると共に、人材育成を行っています。



2 教育研究等

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

財政

キャンパス

熊本大学
ユハラシイコージアム
沿革

学 部

工学部

工学部は明治30年旧制第五高等学校に設立されて以来、3万数千人に及ぶ卒業生を社会に送り出し、わが国の科学技術や経済の発展に大きく寄与してきました。今や活躍の場は世界へと広がっており、海外の大学との教育研究に関する交流協定締結や海外でのフォーラム開催などを通して国際的な連携や拠点づくりに発展しています。本学部では特に問題解決能力や新規分野を開拓発展させる能力を備え、人類の福祉と文化の進展、自然との共生に寄与できる技術者、研究者の養成を目的としており、創造教育としての「ものづくり」から社会との連携を図りながら実現化する「ものづくり」にまで力を入れています。また、優秀で理数科目に強い興味と意欲を持つ学生の能力を伸ばすプログラムが用意されており、少人数教育で科学技術分野における国際的な視野を持つリーダーの育成にも力を入れています。企業からの求人、採用状況はたいへん良好ですが、多くの学生はさらに高レベルの知識や技術を修得するために大学院(博士前期課程)へ進学しています。また、ものづくり教育を支える「ものクリ工房・まちなか工房」、高度な分析機器を備えた「工学研究機器センター」、先端加工機械を導入した「中央工場」などを備えており、教育・研究のための施設や設備も充実しています。



ソーラーカーレース鈴鹿 参戦

大学院

教育学研究科(修士課程)

教育学研究科は、修士課程の大学院研究科として昭和61年4月に設置され、平成21年4月から、学校教育実践専攻(学校教育[教育学・心理学]、特別支援教育、養護教育の各専修)、教科教育実践専攻(言語系教育[国語教育・英語教育]、理数系教育[数学教育・理科教育]、社会系教育[社会科教育]、生活系教育[技術教育・家政教育]、芸術・スポーツ系教育[音楽教育・美術教育・保健体育]の各専修)の2専攻で構成される新しい組織となりました。

本研究科は、教員として必要な資質能力向上させることを目的として、学部からの進学者だけでなく、現職教員も受け入れ、教育実践に関する総合的な教育と研究を行っています。なお、教育学研究科を修了した方には修士(教育学)の学位が授与され、教員専修免許状も取得できます。



社会文化科学研究科(博士前期課程、博士後期課程)

社会文化科学研究科は、平成14年4月に文学部・法学部の専門領域の上に学際的・総合的な独立研究科として博士課程3年が設置され、平成18年4月にはeラーニング専門家の育成を目指した教授システム学(修士課程)が新設されました。また、平成20年4月からは、これまでの社会文化科学研究科と文学研究科(修士課程)、法学研究科(修士課程)を再編統合し、博士前期課程と博士後期課程より構成される新しい組織となりました。

博士前期課程には、従来型の研究コース(8コース)と教授システム学に加え、新しく、公共政策、交渉紛争解決、東アジア・ビジネス・コミュニケーション、文化行政・学芸員、英語教育等の専門職コース(7コース)が設置され、広く社会的ニーズに応える教育を実現します。

博士後期課程では高度専門職業人と研究者の養成を目指し、人間文化の諸側面の研究・現代にふさわしい文化政策形成を目指す「文化学専攻」と、新しい社会システムの構築・政策研究及びその理論的基礎付けを目指す「人間・社会科学専攻」、また「教授システム学専攻」の3つの専攻が置かれ、博士前期課程からの進学者だけでなく、社会人、留学生にも門戸を開いています。



自然科学研究科(博士前期課程、博士後期課程)

自然科学研究科は、平成18年度から理学部と工学部の全教員が自然科学研究科に所属する大学院重点化と一元化の改組を行い、研究を主軸に据えた教育を行う研究大学院としてスタートしました。学部との連続性により理学と工学の専門性をより深く研究教育する専攻(前期課程8専攻と後期課程4専攻)と先端的複合・融合新領域を研究教育する専攻(前・後期課程の複合新領域科学専攻)から成っています。

本研究科では、理学と工学の先端融合の理念のもとに、自ら課題を探索・探し出し、その課題を自ら解析、解決でき、しかも国際的に強いリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的にしています。教育面では、平成19年度に採択された文部科学省の大学院教育改革支援プログラム「大学院科学技術教育の全面英語化計画(GRASIUS)」、平成21年度に採択された「イノベーション創出のための大学院教養教育(AGEIN)」の先進的プログラムによって、世界の第一線で活躍されている多数の海外教員による授業が行われるとともに、学生の海外派遣、英語教育の充実により、大学院の国際化が一層進展しています。また、平成20年度にはグローバルCOEプログラムに「衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点」が採択され、複合新領域科学専攻を中心として国際的教育研究拠点の構築を行っています。さらに、平成21年度イノベーション創出若手研究者人材育成プログラムに採択された「異分野融合イノベーション推進人材の育成」プログラムでは、企業における長期インターンシップの実施などにより、学会だけでなく産業界でも活躍できる博士の養成を行っています。



濟南(中国)で開催された国際学生会議ICAST



ICAST学生交流会

生命科学研究部

近年の飛躍的な生命科学研究の進展により、従来型の研究領域の垣根は実質的に消滅し、学際的領域の研究の発展が目覚ましくなりました。この状況に対応するため、従来の医学研究科と薬学研究科を統合し、研究部(教員の研究組織)と教育部(大学院の教育組織)に分離した新システムの大学院医学薬学研究部が平成15年4月に誕生しました。平成22年1月、この医学薬学研究部に医学部保健学科の教員を組み入れ、新たに生命科学研究部として発足しました。

生命科学研究部は、3部門13講座77研究分野からなる日本最大級の研究特化型医薬系教員組織です。「総合医薬科学部門」では、医学・薬学分野の基盤的な学問体系の深化を目指した研究を、「先端生命医療科学部門」では移植医療やゲノム創薬など生命科学分野の先端的研究を、「環境社会医学部門」では、“医学・薬学と社会”並びに“疾病と環境”的かわりを科学的に究明するとともに、生命倫理に関する先導的研究を推進します。生命と医療に関する研究と教育を通じて人類の健康と福祉に貢献することを生命科学研究部の使命としています。



(本荘) 医学総合研究棟

医学教育部(修士課程、博士課程)

医学教育部は、平成15年4月、医学研究者・教育者ならびに高度医療人を育成するための、大学院教育に特化した組織として設置されました。医学教育部は、4年制の博士課程と、平成14年度に開設した2年制の修士課程により構成されています。修士課程(医学専攻)は、医学・生命科学分野の人材育成に対する社会的要請に対応するものであり、4年制大学等の卒業生を対象としており、各学年20名、総計40名が学べ、修了後には博士課程への進学を奨励しています。博士課程では各学年88名、総計352名が学べます。平成20年4月から、先進的な医療人の育成をめざして、従来の4専攻を「医学」の1専攻に改め、カリキュラムも大幅に改良しました。講義科目、研究の実践に加え、エイズ、がん、代謝循環病と発生再生医学の教育コースを設け、セミナー、医学実験講座や臨床実習を含む多彩な教育により30単位を習得し、国際学術誌に受理された研究論文と総合的かつ論理的な学位論文の完成をもって課程修了としています。生命科学研究部、医学部附属病院、保健センター、発生医学研究所、生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター及び学外連携研究組織の約90の研究分野や診療部などに所属する教員が、教育を担当します。



基礎医学研究棟

大学院

保健学教育部(博士前期課程、博士後期課程)

保健学教育部保健学専攻は、平成20年4月に看護学分野、医用放射線科学分野、検査技術科学分野の3分野を備えた大学院修士課程として設置され、平成22年4月には新たに博士後期課程の設置に伴い、修士課程は博士前期課程となりました。

博士前期課程では、保健・医療・福祉領域における実践的指導者（高度専門職業人）及び研究者・教育者の養成を目的として、一般学生ならびに医療現場の社会人でも学びやすい教育プログラムを編成しています。募集人員は16名で、修了後は修士（看護学）または修士（保健学）の学位が取得できます。博士後期課程は、医療技術科学系教育コースと看護学系教育コースがあり、博士前期課程で培った実践・研究能力を基盤に、保健・医療・福祉分野における学問体系の確立と技術の開発、医療状況の変革を推進する自立的・学際的・独創的な研究能力を兼備した高度医療専門職業人及び研究者・教育者を養成します。募集人員は6名で、修了後は博士（保健学）または博士（看護学）の学位が取得できます。



保健学教育部

薬学教育部(博士前期課程、博士後期課程、博士課程)

薬学部に4年制と6年制の学士課程が併設されたことに合わせ、大学院教育組織である薬学教育部も改組されました。4年制学士課程を基礎とする大学院として創薬・生命薬科学専攻の博士前期課程が平成22年4月に、同専攻の博士後期課程が本年4月に設置され、また6年制学士課程を基礎とする大学院として医療薬学専攻の博士課程が本年4月に設置されています。創薬・生命薬科学専攻では、創薬マインドに基づいて卓越した研究能力を發揮し、先端的研究や医薬品開発の場で指導能力を發揮できる人材を養成します。医療薬学専攻では、薬学・生命科学の幅広い知識と深い思考力を備え、高い研究志向と問題解決能力を有する高度医療専門職業人・研究者・教育者を養成します。本教育部では、生命科学研究部に加えて発生医学研究所、生命資源研究・支援センター、医学部附属病院等の教員が教育にあたり、異分野教員の連携に基づいた特色ある教育プログラムを用意しています。



(大江) 総合研究棟

法曹養成研究科(法科大学院の課程)

法曹養成研究科は、地域特有の法的ニーズに応えると同時に、グローバルな法的諸問題を解決する能力をもつ、21世紀を担う法曹の養成を目的として、平成16年4月に設置されました。学生定員は22名（2年短縮コース若干名を含む）、専任教員18名（うち実務家教員5名）です。法学教育、司法試験、司法修習というプロセスとしての法曹養成を重視して、授業科目を「法律基本科目群」、「法律実務基礎科目群」、「基礎法学・隣接科目群」、「展開・先端科目群」の4大科目群に分け、段階的・系統的なカリキュラムを編成し、理論と実務を架橋する実践的教育、新しい法的ニーズにも対応する特色ある教育を行っています。

また、臨床法学の教育と研究を専門的に担う臨床部門として、「附属臨床法学教育研究センター」を設置しています。本センターは、法律問題をより身近、実践的に学ぶ場として、本学共用棟黒髪6に設置されています。同センターは、リーガル・クリニックなど学生の臨床教育や教員の実務研修を行っているほか、大学の地域貢献を目的として県内各地で無料法律相談を行っています。



専攻科・別科

特別支援教育特別専攻科

特別支援教育特別専攻科は、現職教員や他分野の教員免許状を持つ、本学及び他大学卒業生を対象に、特別支援教育に関する専門的な知識を有する人材の養成を目的としています。

なお、特別支援学校教諭の一種免許状取得コース及び専修免許状取得コースがあります。



養護教諭特別別科

養護教諭特別別科は、看護師の免許を取得している者や取得見込みの者を対象に、資質の優れた養護教諭を養成することを目的としています。カリキュラムは教養教育科目・養護専門科目・教職専門科目で構成され、学生は理論と技術をバランスよく学習することができます。



研究所

発生医学研究所

熊本大学発生医学研究所は、昭和14年に設置された体質医学研究所を原点にして、昭和59年に遺伝医学研究施設、平成4年に遺伝発生医学研究施設を経て、平成12年に発生学と医学を融合する発生医学の研究教育を推進する目的で、前身の発生医学研究センターが設立されました。平成21年に発生医学研究所に改組拡充し、平成22年に発生医学分野の共同利用・共同研究拠点に認定されました。平成24年に附属臓器再建研究センターを設置して、臨床応用を目指した体制を整備しました。

本研究所は、発生学の視点から生命科学領域の国際水準の研究教育を推進することを組織目標とし、発生医学の先端的研究、恒常的視野に立った人材育成、国内外の連携ネットワークを強化した国際研究教育拠点として社会的な役割を果たすことを基本理念としています。



機 構

大学院先導機構

本学は、優れた研究環境を確保し学術研究を推進することにより、国際社会及び地域社会に貢献しうる存在感ある総合大学の構築を目指しています。そのために、大学院先導機構では、基礎科学と応用科学の有機的連携のもと、生命科学、自然科学、人文社会科学及び学際・複合・新領域の学問領域で最も力のある分野において先導的研究を重点化し、国際競争力のある研究拠点の形成を推進しています。

また、それを通じて、新しいCOE、新研究センター、新大学院専攻等を創出し、もって本学の教育研究活動の充実発展及び変革に寄与することを目指しています。

機 構

イノベーション推進機構

イノベーション推進機構は、本学の知的・人的・物的資源を最大限に活用し、イノベーション創出のための产学官連携を積極的に推進し、国際的に優れた特許を生み出し、国際競争力につながる知的財産の活用を図るとともに、地域における技術開発・技術教育の振興、ベンチャー企業の起業家の育成及び起業他の支援並びにこれらに係る高度な人材の育成を目的としています。

国際化推進機構

国際化推進機構は、本学の国際化に関する最重要事項や課題に関する意思決定機関として平成21年1月に発足しました。学長を機構長とする本機構は、「戦略的連携」「人材の流動化」「情報発信」「英語共用語化」を国際化推進の重要な戦略として位置づけ、教育・研究両面における国際交流を推進します。

教養教育機構

本学は、新たな学士課程教育の構築に向けて、不断なる教育改革に取り組む中で、教養教育の実施を担う組織として平成23年8月1日付けで教養教育機構を新設しました。教養教育機構は、これまでの「教養教育の理念・目的」からさらに一歩進めて、今日の課題である「学士課程教育の理念・目的」を達成するために、学士課程教育の主体である学部が、教養教育の運営に主体的に関与する体制になっています。

学内共同教育研究施設

総合情報基盤センター

全学の情報通信ネットワークを有機的に結合した情報基盤の中核組織です。

計算機援用教育研究部門、メディア情報処理研究部門、ネットコミュニケーション研究部門の三つの研究部門からなり、それぞれ情報メディア通信を利用した教育システムの研究、学術情報コンテンツの作成公開に関する研究、情報セキュリティに関する研究などを集めています。全学の学生に対して情報基礎教育を実施し、本学の全卒業生に対して相当レベルのコンピュータ技術の修得を保証しています。また、全学に10ギガビットネットワークを通して約1,350台のパソコン端末を提供し、さらに、全学無線LANによってどこでもインターネットに接続できる環境などを提供しています。

国際化推進センター

副学長(国際交流担当)をセンター長とする国際化推進機構の中核組織です。国際化推進機構会議等で決定された事項の実施を担当し、「国際交流支援部門」及び「国際語学部門」に分かれ、教育における国際通用性の向上、研究における国際的卓越性を持つこと、留学生の受入れと支援、日本人学生・教職員の海外派遣の促進、学際的・国際的教育研究交流の活発化などを達成するための多彩な施策を展開します。

大学教育機能開発総合研究センター

大学教育機能開発総合研究センターは、熊本大学の教養教育を含む大学教育について調査・研究・開発を行なうとともに、教養教育の実施に関し教養教育機構と有機的に連携して期待される役割を果たし、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的としています。

主な業務としては、教養教育のカリキュラム開発、教養教育及び専門教育の有機的連携、学部教育及び大学院教育との連携、CALL教育、教育能力向上のための方策の開発、効果的な教授法の開発・支援、教育活動評価方法の開発・支援、教養教育の円滑かつ実効的な実施システムの開発、学生の学習・生活支援システムの開発に関するなどがあげられます。

政策創造研究教育センター

政策創造研究教育センターは、熊本大学が有する知的・人的・物的資源を利用して、地域社会の課題解決に向けた研究や政策提言を行うシンクタンク機能を発揮するとともに、さらに地域社会を担う人材の育成という生涯学習機能を果たすことで、良き地域社会の形成に貢献することを目指しています。

五高記念館

五高記念館は旧制第五高等学校の本館及び隣接する化学実験場を活用した大学博物館です。建物は国の重要文化財指定を受けています。本館の内部は旧制第五高等学校に関するさまざまな高等教育史・資料を展示するとともに、講演会や講座、体験学習会、コンサートなども実施しています。学芸員養成課程の博物館実習の受け入れや、広く博物館に関するレファレンスサービスも行っており、本学における生涯学習の拠点施設の一つとなっています。

また平成22年12月には、博物館相当施設の指定を受けました。

eラーニング推進機構

eラーニング推進機構は、熊本大学におけるeラーニング推進・支援体制の確立を目指し、様々な活動を展開しています。eラーニングコンテンツの開発と開発支援を行うため、「eラーニング全般に関するサポート窓口の一本化」、「全学的視野に立ったプロジェクトタイプの効率的開発」、「インストラクショナルデザインに基づく教育効果の高い教材開発」、「評価、表彰、著作権・使用権、管理・システム連携」に重点を置き、全学的な強い連携体制のもとで推進しています。

沿岸域環境科学教育研究センター

平成13年4月、学内共同教育研究施設として発足した沿岸域環境科学教育研究センターは、日本最大級の干潟と高い閉鎖性海域で知られる有明海・八代海を中心とする沿岸域の自然・社会環境に関する基礎科学、応用科学などの幅広い研究を行い、地域社会へ貢献することを目指しています。すなわち、干潟沿岸域の生物多様性や生態系の解明、持続可能な水産資源の保全・開発、沿岸域の水圏・地圏・生態系の相互関係の解明、自然調和型の沿岸域の保全・利用・防災などの教育研究を実施しており、得られた成果を社会に還元して、より良い地域環境を保全し創成するための教育研究を行っています。海洋施設として、天草に合津マリンステーションを持つており、学内外の学生の臨海実習をはじめとする環境教育などにも広く貢献しています。

本センターは、国や県、地域の自治体・研究機関・企業、地域住民などと密接に連携することによって、地域における沿岸環境科学の中心として機能させるとともに、アジア地域の沿岸環境科学の最先端研究ネットワークの拠点としての国際化を目指しています。

衝撃・極限環境研究センター

衝撃・極限環境研究センターでは、衝撃超高压、静的超高压、極低温、強磁場、超重力場をはじめとする極限環境をつくり出し、そこに固体や液体を置いた場合の状態や次世代半導体開発などについて研究しています。さらにそれを用いた新材料の開発、複合化させた各種の極限環境を利用した新しい凝縮体の解明、その応用技術の開発など、研究分野は無限大の広がりを見せています。

本センターは、国内の大学では唯一、爆薬・衝撃銃等主要な衝撃エネルギーを全て利用することが可能な総合実験施設を持っているため、国内外から注目を集めています。海外の著名な研究機関との間に学術交流協定を結んでおり、留学生の受け入れや研究者の派遣・受け入れなどの交流も盛んです。国際的視野に立った先導的研究の推進と、地域や産学官の交流をさらに深め、社会的ニーズを常に意識した先端的科学技術研究の発展を目指しています。

2 教育研究等

学内共同教育研究施設

先進マグネシウム国際研究センター

平成23年12月に設置された先進マグネシウム国際研究センターには、世界トップクラスのマグネシウム合金専用の最新鋭製造・加工設備や分析機器が整備されており、合金設計、合金評価、形質制御、構造体化の4つの研究分野からなるモノづくりの川上から川下まで一貫した研究体制によって、KUMADA/マグネシウム合金をはじめとする先進マグネシウム合金について基礎と応用の両面から研究しています。また、大学院教育も含めた人材育成、地域貢献も含めた産学官連携、東アジアから世界展開を目指した国際連携も進めており、国際的な中核的研究センターとして、世界の研究をリードしています。

生命資源研究・支援センター

平成15年度に設置された生命資源研究・支援センターは、熊本大学における研究資源に関する開発研究等を行なうとともに、研究資源及び研究資源情報をベースとした諸科学分野の教育研究のさらなる発展を目的として活動しています。

主な業務としては、遺伝子改変動物などの実験動物の作製、開発、保存、供給、データベースの構築・解析、表現型解析、動物実験、遺伝子実験、アイソトープ実験などの研究、情報提供並びに技術指導などがあげられます。

エイズ学研究センター

エイズ学研究センターは、日本の大学では初めてで唯一エイズ専門のセンターとして平成9年の設立以来、生命科学研究部のエイズ研究分野や、東京の国立国際医療研究センターと連携をとりながら、エイズ撲滅を目指して最先端の研究を行っています。特に、HIV感染症での免疫を中心とした研究と新薬の開発に焦点を絞り、新たな治療法や予防法の開発を目指して、エイズとの戦いを続けています。

バイオエレクトリクス研究センター

バイオエレクトリクス研究センターは、医薬・理・工に跨るバイオエレクトリクスに特化した研究を推進する国内唯一の研究センターです。「バイオエレクトリクス」とは、ナノ秒オーダーの瞬間的電気エネルギーであるパルスパワーを生物に作用させ、生物に誘導される特異的な応答を理解するとともに、これを制御して食品、環境、医療に利用する、異分野融合型の新しい学問分野です。バイオエレクトリクス研究を推進することにより、環境、食品、農業や医療分野の新たな産業の創出を目指しています。

環境安全センター

本学の教育研究活動等における教職員及び学生等の安全を確保するとともに、教育研究等の活動に伴い発生する廃液等廃棄物の適正な管理及び処理並びに環境安全に係る啓発活動等を図ります。

埋蔵文化財調査センター

本学が市内に擁する8つのキャンパスは、縄文時代から近世にかけての県下でも有数の遺跡内に立地しています（黒髪町遺跡、本庄遺跡、大江遺跡など）。このため、キャンパス内の施設整備（建物の建築・改修、ライフラインの整備等）で地面を掘削する際、遺跡の破壊が避けられない場合には、遺跡の保護のため、発掘調査を行っています。

本センターは、1994年より実施してきた発掘調査で出土した埋蔵文化財（遺跡・遺物）を記録し、保存・活用することにより、本学の教育と研究に貢献することを目的として平成23年10月に前身の埋蔵文化財調査室を改組し、学内共同教育研究施設として設置されました。調査結果については、年報・報告書を作成し、情報公開につとめるとともに、出土品の見学も隨時受け付けています。

学外オフィス

熊本大学東京オフィス

開 設 平成16年4月

- ①産学連携の支援
- ②本学の教育研究活動の情報発信
- ③入試情報の発信及び学生の就職活動支援
- ④同窓会組織との連携活動
- ⑤各種セミナー及び会議等の開催

郵便番号 〒108-0023

住 所 東京都港区芝浦3-3-6

TEL・FAX 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター6階608号室

03-5440-9093

E-mail kuma-u.tokyo@friend.ocn.ne.jp

開館時間 平日10:00~17:00

休 館 日 土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



熊本大学関西オフィス

開 設 平成23年12月

- ①産学連携の支援
- ②本学の教育研究活動の情報発信
- ③入試情報の発信及び学生の就職活動支援
- ④同窓会組織との連携活動
- ⑤各種セミナー及び会議等の開催

郵便番号 〒530-0001

住 所 大阪府大阪市北区梅田1-1-3

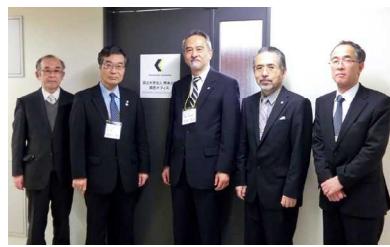
大阪駅前第3ビル6階608-2号室

TEL・FAX 06-4256-8153

E-mail kansai-office@jimu.kumamoto-u.ac.jp

開館時間 平日10:00~17:00

休 館 日 土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



熊本大学関西リエゾンオフィス

開 設 平成21年10月

- ①企業訪問等による産学連携促進及び技術移転活動
- ②技術相談及び共同研究打合せ
- ③研究シーズ等の常設展示及び広報活動
- ④熊本大学案内、入試情報等の周知及び就職支援等
- ⑤同窓会組織等との連携活動
- ⑥各種セミナー及び会議等の開催

郵便番号 〒577-0011

住 所 大阪府東大阪市荒本北1-4-1

クリエイション・コア東大阪南館 2203室

E-mail kansai@kumamoto-u.ac.jp



熊本大学上海オフィス(熊本上海事務所)

開 設 平成17年10月

(平成23年10月より熊本県、熊本市と共同で熊本上海事務所として運営)

- ①交流協定校等の学生交流・学術交流の促進
- ②留学生の開拓及び留学予定者に対する渡航前準備の支援
- ③産学官国際連携活動の促進
- ④大学情報及び入試情報の発信、広報活動の支援
- ⑤同窓会の支援拠点

郵便番号 〒200041

住 所 上海市南京西路1038号梅龍鎮広場1509室

(社団法人熊本県貿易協会上海事務所内)

TEL +86-21-6218-6901

FAX +86-21-6218-6911

E-mail hehaiyang@kumamoto-shanghai.com



2 教育研究等

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

財政

キャンパス

熊本大学
ユバニク・コミュニケーションズ
沿革

学外オフィス

熊本大学韓国KAISTオフィス

開 設 平成20年9月**業務内容**

- ①学術協力の推進
 - ②両校合同研究シンポジウム開催支援
 - ③大学情報及び入試情報の発信、広報活動の支援
- 郵便番号 〒305-701
住所 373-1 Kusong-dong, Yusong-gu, Taejon, Korea
(韓国科学技術院(KAIST) Biomedical Research Center内)



熊本大学(駐山東大学)国際産学連携サテライトオフィス

開 設 平成22年3月**業務内容**

- ①産学連携活動の促進
 - ②学術交流の推進
 - ③大学情報の発信
 - ④中国における本学の活動拠点
- 郵便番号 〒250100
住所 中国済南山大南路27号山東大学(国際合作及び交流処)内
E-mail ipo@sdu.edu.cn



熊本大学インドネシアITSオフィス

開 設 平成22年4月**業務内容**

- ①交流協定校等との学生交流・学術交流の促進
 - ②留学生の開拓及び留学予定者に対する渡航前準備の支援
 - ③産学官国際連携活動の促進
 - ④大学情報及び入試情報の発信、広報活動の支援
 - ⑤同窓会の支援拠点
- 郵便番号 〒60111
住所 Gedung Rektorat Lantai 2
Kampus ITS Keputih - Sukolilo Surabaya.
Jawa Timur, Indonesia
(スラバヤ工科大学(ITS)国際交流室内)



熊本大学大連オフィス

開 設 平成23年3月**業務内容**

- ①大連理工大及び中国北部の交流協定校等の学生及び教職員への日本及び熊本大学に関する情報の発信
- ②中国北部の卒業生及び関係者のネットワーク形成
- ③中国北部の他の交流協定校等との関係強化の取り組み
- ④その他中国北部での熊本大学の活動

郵便番号 〒116024

住所 中華人民共和国

大連市軟件園路80号 科技園B棟106号室

TEL +86-411-8470-2983



寄附講座

奨学を目的とする民間等からの寄附により設置・運営し、教育研究の充実をはかります。

(H3.4～H24.5現在)

| 部局名 | 寄附講座名称 | 設置期間 | 寄附者 |
|------------|--------------------|-----------------------|---|
| 薬学部 | 医薬高分子学寄附講座 | 平成18年4月1日～平成25年3月31日 | ニプロ株式会社 |
| 薬学部 | 先端DDS学寄附講座 | 平成18年4月1日～平成25年3月31日 | 株式会社 LTT バイオファーマ |
| 薬学部 | 病態薬効解析学寄附講座 | 平成3年10月1日～平成25年3月31日 | 平成3年10月1日～平成24年3月31日：阿蘇製薬株式会社 平成24年4月～寄附者の依頼により寄附者名を非公開 |
| 工学部 | 太陽電池・環境自然エネルギー寄附講座 | 平成18年4月1日～平成25年3月31日 | 富士電機システムズ株式会社 |
| 大学院自然科学研究科 | 電力フロンティア講座 | 平成20年4月1日～平成26年3月31日 | 株式会社 九州電力 |
| 大学院生命科学研究部 | 免疫・アレルギー・血管病態学寄附講座 | 平成23年4月1日～平成28年3月31日 | 医療法人 博麗会 のぐち皮ふ科 医療法人 信岡会 菊池病院 医療法人 春水会 山鹿中央病院 医療法人 岡山会 九州記念病院 医療法人 愛生会 外山病院 医療法人社団 仁誠会 医療法人 中下会 内科熊本クリニック 医療法人社団 東陽会 東病院 医療法人社団 藤栄会 末藤内科循環器科 メディカルスクエア九品寺クリニック |
| 大学院生命科学研究部 | 糖尿病分子病態解析学寄附講座 | 平成22年4月1日～平成27年3月31日 | MSD株式会社 |
| 大学院生命科学研究部 | 感染制御学(肥後銀行)寄附講座 | 平成19年4月1日～平成25年3月31日 | 株式会社 肥後銀行 |
| 大学院生命科学研究部 | 感染症阻止学寄附講座 | 平成17年4月1日～平成27年3月31日 | 一般財団法人 化学及血清療法研究所 |
| 大学院生命科学研究部 | 画像診断解析学寄附講座 | 平成15年10月1日～平成26年3月31日 | 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン |
| 医学部附属病院 | 脳卒中・急性冠症候群医療連携寄附講座 | 平成23年4月1日～平成26年3月31日 | 熊本県 |
| 医学部附属病院 | 移植医療学寄附講座 | 平成22年5月1日～平成27年3月31日 | 一般財団法人 化学及血清療法研究所 |
| 医学部附属病院 | 循環器予防医学先端医療寄附講座 | 平成22年4月1日～平成27年3月31日 | 医療法人社団 陣内会 陣内病院 |
| 医学部附属病院 | 地域専門医療推進学寄附講座 | 平成22年4月1日～平成26年3月31日 | 熊本県 |
| 医学部附属病院 | 重症心身障がい学寄附講座 | 平成22年4月1日～平成26年3月31日 | 熊本県 |
| 医学部附属病院 | 循環器臨床研究先端医療寄附講座 | 平成21年4月1日～平成26年3月31日 | 日本ベーリングainerゲルハイム株式会社 バイエル薬品株式会社 田辺三菱製薬株式会社 塙野義製薬株式会社 シエリング・プラウ株式会社 日本セルヴィエ株式会社 アステラス製薬株式会社 |
| 医学部附属病院 | 地域医療システム学寄附講座 | 平成21年1月1日～平成26年3月31日 | 熊本県 |
| 医学部附属病院 | 新生児学寄附講座 | 平成21年1月1日～平成25年12月31日 | 医療法人社団 愛育会 福田病院 |
| 医学部附属病院 | 機能神経外科先端医療寄附講座 | 平成20年7月1日～平成25年3月31日 | 医療法人社団 北斗会 北斗病院 |
| 医学部附属病院 | 心血管治療先端医療寄附講座 | 平成20年4月1日～平成25年3月31日 | ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ボストン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社 デルモ株式会社 株式会社カネマテイックス 日本メドトロニック株式会社 日本ライフライン株式会社 アボット・バスキャリー・ジャパン株式会社 セント・ユード・メディカル株式会社 ジー・エム・メディカル株式会社 アイティーアイ株式会社 株式会社ネオテック 田辺三菱製薬株式会社 |
| 医学部附属病院 | 不整脈先端医療寄附講座 | 平成19年4月1日～平成29年3月31日 | ボストン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社 日本光電工業株式会社 フクダ電子株式会社 セント・ユード・メディカル株式会社 日本ライフライン株式会社 日本メドトロニック株式会社 株式会社フィデスワ 医療法人 田中会 武藏ヶ丘病院 医療法人社団 鶴友会 鶴田病院 医療法人社団 イナイ会 小沢医院 医療法人 永田会 東熊本病院 医療法人社団 仁誠会 株式会社メディカル・アプライアンス バイオトロニックジャパン株式会社 |
| 医学部附属病院 | 心不全先端医療寄附講座 | 平成23年6月1日～平成28年3月31日 | 帝人在宅医療株式会社 |
| 医学部附属病院 | 消化器癌集学的治療学寄附講座 | 平成23年10月1日～平成26年9月30日 | 株式会社ヤクルト本社 中外製薬株式会社 |
| 医学部附属病院 | 乳癌分子標的治療学寄附講座 | 平成24年4月1日～平成27年3月31日 | 中外製薬株式会社 アストラゼネカ株式会社 ノバルティスファーマ株式会社 |

医学部附属病院

附属病院は、診療科・薬剤部・看護部及び中央診療施設等を有し、病床数845床(一般病床795床、精神病床50床)で、1日平均の外来患者数は1,300人を超えております。

現在、21世紀の医学、医療を担うに足る附属病院の完成を目指し、新外来棟の整備を行っており、先進医療と全人的・包括的医療を兼ね備えた総合診療体制の確立を推進しています。その一環として、平成16年1月から診療内容も臓器別・系統別診療体制へ移行したほか、都道府県がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院等の指定も受けており、熊本県の地域医療水準の向上に取組んでおります。

理 念

本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

基本方針

- 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- 安全安心で質の高い医療サービスの提供
- 優れた医療人の育成
- 先進医療の開発と推進

診 療 科

● 内科部門

<診療科名>
呼吸器内科／消化器内科／血液内科
膠原病内科／腎臓内科
代謝・内分泌内科／循環器内科
神経内科

● 外科部門

<診療科名>
心臓血管外科／呼吸器外科
消化器外科／乳腺・内分泌外科
小児外科／移植外科／泌尿器科
婦人科

● 成育医療部門

<診療科名>
小児科／発達小児科／産科

● 感覚・運動部門

<診療科名>
整形外科／皮膚科／形成・再建科
眼科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科
歯科口腔外科

● 放射線診療部門

<診療科名>
画像診断・治療科／放射線治療科

● 脳・神経・精神部門

<診療科名>
神経精神科／脳神経外科／麻酔科

中央診療施設等

中央検査部

集中治療部

輸血・細胞治療部

光学医療診療部

総合周産期母子医療センター

医療の質管理センター

中央放射線部

救急・総合診療部

感染免疫診療部

治験支援センター

ME機器センター

移植医療センター

病理部

中央材料部

血液浄化療法部

高度医療開発センター

がんセンター

中央手術部

リハビリテーション部

総合臨床研修センター

地域医療連携センター

地域医療支援センター

**医療情報経営
企画部**

薬剤部

看護部

医療技術部

栄養管理部

医療安全管理部

事務部



西病棟・東病棟



各診療科等の実習に対応できる臨床シミュレーションシステム



平成21年6月に(財)日本医療機能評価機構から

病院機能評価の認定を受けました

附属図書館

附属図書館は、中央館・医学系分館・薬学部分館で構成され、それぞれのキャンパスにおける教育研究活動を支援する情報基盤の一つとして活動しています。ネットワークを通じて利用できる電子図書館的サービス(各種情報検索、電子ジャーナル、図書発注、文献複写依頼等)の提供など、いつでも利用できる図書館となっています。また、開かれた大学の図書館として、一般市民への貸出、熊本大学学術リポジトリによる研究成果のインターネット公開など、地域社会に対する学術情報提供の拠点としても機能しています。

蔵書類

(H24.3.31現在)

| | 単位 | 中央館 | 医学系分館 | 薬学部分館 | 合計 |
|-----------|-----------|-----------|---------|--------|-----------|
| 図書 | 和書(蔵書数) 冊 | 705,737 | 72,716 | 15,882 | 794,335 |
| | 洋書(蔵書数) | 355,723 | 109,982 | 23,145 | 488,850 |
| 合計 | | 1,061,460 | 182,698 | 39,027 | 1,283,185 |
| 雑誌 | 和書 種類 | 10,888 | 2,449 | 583 | 13,920 |
| | 洋書 | 4,107 | 2,661 | 449 | 7,217 |
| 合計 | | 14,995 | 5,110 | 1,032 | 21,137 |
| リポジトリ登録件数 | 件 | — | — | — | 9,954 |



▲閲覧室(中央館)

利用状況

(H23年度)

| | 単位 | 中央館 | 医学系分館 | 薬学部分館 | 合計 |
|-----------------------|----|---------|---------|--------|---------|
| 入館者数 | 人 | 335,758 | 121,305 | 47,649 | 504,712 |
| 貸出冊数 | 冊 | 60,770 | 7,059 | 649 | 68,478 |
| 文献複写数 (相互利用) 依頼 | 受付 | 1,241 | 2,026 | 157 | 3,424 |
| | 件 | 1,740 | 1,191 | 324 | 3,255 |
| リポジトリダウンロード件数 | 件 | — | — | — | 341,512 |
| 座席数 | 席 | 570 | 219 | 58 | 847 |



▲パソコンコーナー

貴重資料

| 文庫名 | 内 容 |
|-----------------|---------------------------|
| 阿蘇家文書 | 阿蘇家旧蔵の中世以降の古文書類(国指定重要文化財) |
| 細川家北岡文庫 | 肥後藩政に関する資料 |
| 時習館文庫 | 旧藩校時習館の典籍類 |
| 松井文庫 | 旧松井男爵家旧蔵の古文書典籍類 |
| 菅野文庫 | 菅野は政氏旧蔵の幕末期の蘭書 |
| 落合文庫 | 落合東郭氏旧蔵の漢籍類 |
| 柚原文庫 | 柚原益樹氏旧蔵の支那哲学関係漢籍類 |
| ポーター文庫 | ウイリアム・ポーター氏五高在職当時の所蔵書 |
| 八雲文庫 | 小泉八雲に関する作品・伝記・評論の集積 |
| 仲光家文庫 | 旧熊本藩士、仲光家に伝わった古文書・典籍類 |
| 横井小楠文書 | 横井小楠に関する古文書・古記録類 |
| ラカティオ・ハーンコレクション | ハーンの著作およびハーン関係研究書のコレクション |



▲八雲文庫「ちりめん本」



▲永青文庫寄託「源氏物語」

全国共同利用大型資料（人文・社会科学系）

| 資料名 | 内 容 |
|----------------------|--|
| 英國議会資料 | IPU BLUE BOOKS, 1,000 Vols. 19世紀英国議会報告書の中から、主要な社会・政治的資料を1,000巻にまとめたもの |
| SYNTHESE LIBRARY | 認識論・論理学・社会哲学とその関連領域の最新史料 135巻 |
| 民国二十年代中国大陆土地問題資料 | 1932年に国民政府によって中央政治学校内に設置された地政学院の研究生が2年にわたって行った実地調査の報告書(全200冊) |
| シェイクスピア研究書コレクション | 英国の文学批評家であるフランク・カーモード教授旧蔵のシェイクスピア研究書コレクション 805点 |
| 少数民族と移出入民：地球規模の現象と課題 | 世界の少数民族に関する民族誌、少数民族問題の社会学的研究、地球レベルでの移民と移動に関する研究及び書誌1セット(462冊 148リール) |
| 米田家文書 | 熊本藩第二家老米田家の近世初期・中期及び幕末期の文書群126点、書類約400綴 |

学位授与数

(H24.3.31現在)

| 区分 | 旧制 | 新 制 | | | | |
|-------------|-------|---------|-------|--------|--------|-------|
| | | 課 程 | | | 論 文 | |
| | | 卒業者・修了者 | 選及修了者 | 累 計 | 平成23年度 | 累 計 |
| 博士(文学) | | 6 | 0 | 45 | 1 | 13 |
| 博士(公共政策学) | | 2 | 0 | 19 | 0 | 3 |
| 博士(法学) | | 0 | 0 | 5 | | |
| 博士(理学) | | 11 | 1 | 167 | 0 | 28 |
| 博士(工学) | | 31 | 3 | 528 | 0 | 108 |
| 博士(学術) | | 22 | 0 | 248 | 0 | 18 |
| 博士(医学) | 1,663 | 34 | 18 | 1,848 | 12 | 954 |
| 博士(薬学) | | 14 | 1 | 233 | 2 | 140 |
| 博士(臨床薬学) | | 0 | 0 | 7 | | |
| 博士(生命科学) | | 0 | 0 | 13 | 0 | 2 |
| 法務博士(専門職) | | 16 | 0 | 128 | | |
| 修士(文学) | | 19 | 0 | 908 | | |
| 修士(教育学) | | 41 | 0 | 988 | | |
| 修士(法学) | | 4 | 0 | 429 | | |
| 修士(公共政策学) | | 7 | 0 | 73 | | |
| 修士(医学) | | 31 | 0 | 194 | | |
| 修士(看護学) | | 9 | 0 | 25 | | |
| 修士(保健学) | | 13 | 0 | 30 | | |
| 修士(薬科学) | | 30 | 0 | 30 | | |
| 修士(生物学) | | 3 | 0 | 1,590 | | |
| 修士(臨床薬学) | | 0 | 0 | 76 | | |
| 修士(理学) | | 109 | 0 | 1,903 | | |
| 修士(工学) | | 348 | 0 | 7,643 | | |
| 修士(学術) | | 10 | 0 | 43 | | |
| 修士(教授システム学) | | 16 | 0 | 64 | | |
| 合 計 | 1,663 | 776 | 23 | 17,237 | 15 | 1,266 |

平成23年度中に授与した学位の数(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

奨学生数

(H24.3.1現在)

| 区分 | 在学生数 | 日本学生支援機構 | | | 各種団体 育英会 | 合 計 |
|-----|---------|----------|-------|-------|-------------|-------|
| | | 一種 | 二種 | 計 | | |
| 学 部 | 8,110 | 1,717 | 3,274 | 4,991 | 98 | 5,089 |
| 大学院 | 博士前期・修士 | 1,332 | 632 | 280 | 912 | 10 |
| | 博士後期・博士 | 693 | 124 | 11 | 135 | 1 |
| | 法曹養成研究科 | 74 | 46 | 32 | 78 | 1 |
| 合 計 | 10,209 | 2,519 | 3,597 | 6,116 | 110 | 6,226 |

「学部」は、特別支援教育特別専攻科及び養護教諭特別別科を含む。

海外派遣留学生

交流協定校への派遣学生

学生交流協定を締結している大学への1年以内の派遣のほか、熊本市派遣留学制度による交流事業も行われています。

(過去5年間の実績)

| 国名・地域 | 大学名 | 派遣人員 | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|--------|---|----|--------|---|----|--------|---|----|--------|----|----|--------|----|----|---|
| | | 平成19年度 | | | 平成20年度 | | | 平成21年度 | | | 平成22年度 | | | 平成23年度 | | | |
| | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | |
| アメリカ合衆国 | モンタナ州立大学 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | モンタナ大学 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 3 | |
| | パシフィック大学 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | |
| オーストラリア | ニューカッスル大学 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | |
| ニュージーランド | マッセー大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| イギリス | リーズ大学 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | |
| ドイツ | ボン大学 (文学部との部局間交流協定校) | 2 | 1 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | ザールラント大学 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| フランス | ポルドー大学連合 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | |
| | ポルドー国立電子情報高等学院 | — | — | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | |
| チエコ | オストラバ工科大学及び チエコ科学アカデミー地球科学研究所 (工学部・自然科学研究科との部局間交流協定校) | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | |
| 中国 | 同済大学 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 広西師範大学 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 上海師範大学 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | |
| | 山東大学 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 | |
| 台湾 | 南栄技術学院 (教育学部との部局間交流協定校) | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | |
| | 南台科技大学 | — | — | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | |
| 韓国 | 培材大学校 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 東亜大学校 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 | 1 | 1 | |
| ベトナム | ハノイ建設大学 (工学部・自然科学研究科との部局間交流協定校) | — | — | — | — | — | — | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| トルコ | エーゲ大学 | — | — | — | — | — | — | 6 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合 計 | | 11 | 7 | 18 | 6 | 9 | 15 | 12 | 8 | 20 | 3 | 16 | 19 | 5 | 10 | 15 | |

国際共同教育事業(短期派遣留学生交流支援)

平成23年度より、独自の奨学金制度を新設して、交換留学の支援・促進を行っています。

支援内容:毎年6名程度に派遣期間中奨学金として月額8万円を支給

国際共同教育事業(短期派遣留学生交流支援)受給者

| 部局名 | 平成23年度 | | |
|-----|--------|---|---|
| | 男 | 女 | 計 |
| 学部 | 法学部 | 0 | 2 |
| | 薬学部 | 0 | 2 |
| 合 計 | 0 | 4 | 4 |

包括的連携協定等

本学の知的・人的資源を活用して、連携各機関と相互に協力しながら、地域における教育や文化の質の向上、産業の振興、地域課題の解決、環境保全に貢献することを目的としています。

| | 機 関 [協定年月日] | 目 的 |
|-------|-----------------------------------|--|
| 自治体 | 天草市(旧本渡市) [平成16年3月29日] | 包括的な連携の下、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。 |
| | 葦北郡芦北町 [平成18年12月4日] | 中山間地域の振興を目指して相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。 |
| | 熊本市 [平成19年4月26日] | 相互に協力し、熊本市及び熊本都市圏を始めとする地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。 |
| | 水俣市 [平成19年8月4日] | 環境モデル都市の実現のため、環境保全、人材育成、地域づくり等様々な分野において、相互に協力することを目的とする。 |
| 研究機関等 | 財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団 [平成18年4月21日] | 相互に協力し、火山を始めとする阿蘇地域に関する研究及び地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。 |
| | 放送大学 [平成22年11月20日] | 包括的な連携協力の下、教育研究の推進並びに地域及び国際社会に寄与することを目的とする。 |
| 企業等 | 富士電機システムズ株式会社 [平成17年8月23日] | 本学の有する研究成果と企業の有する技術力を集結し、产学の連携を推進することにより「次世代技術」を開発し、あわせて学術協力の振興、研究成果による社会貢献及び研究者・技術者の育成に資することを目的とする。 |
| | DOWAホールディングス株式会社 [平成19年2月16日] | 包括的な連携の下、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。 |
| | 株式会社熊本日日新聞社 [平成23年2月23日] | 相互が有する人的、知的資源及び調査研究成果等の交流を行い、相互に連携することにより、地域情報化を推進し、あわせて学術研究の振興、地域情報化に係わる人材の育成に資することを目的とする。 |
| | 特定非営利活動法人NEXT熊本 [平成23年4月13日] | KUMADA! マグネシウム合金の製造・開発にかかる連携協力を強化し、産業界における実用化を促進することを目的とする。 |
| | 不二ライトメタル株式会社 [平成23年9月1日] | ▲熊本日日新聞社との協定調印式 |



▲熊本日日新聞社との協定調印式



▲不二ライトメタルとの協定調印式

五高記念館入館者数

| 年 度 | 年間開館日数 | 総入館者数 | (1日平均) |
|--------|--------|--------|--------|
| 平成13年度 | 103 | 4,558 | (約44人) |
| 平成14年度 | 102 | 2,017 | (約19人) |
| 平成15年度 | 99 | 1,651 | (約16人) |
| 平成16年度 | 99 | 2,409 | (約24人) |
| 平成17年度 | 122 | 3,257 | (約26人) |
| 平成18年度 | 314 | 6,618 | (約21人) |
| 平成19年度 | 303 | 8,656 | (約28人) |
| 平成20年度 | 296 | 10,123 | (約34人) |
| 平成21年度 | 298 | 9,432 | (約31人) |
| 平成22年度 | 288 | 9,521 | (約33人) |
| 平成23年度 | 292 | 10,918 | (約37人) |

平成18年2月までは、土・日のみの開館。

入館者数状況



▲展示室の勝海舟筆扁額

平成24年度収入・支出予算額

収入予算

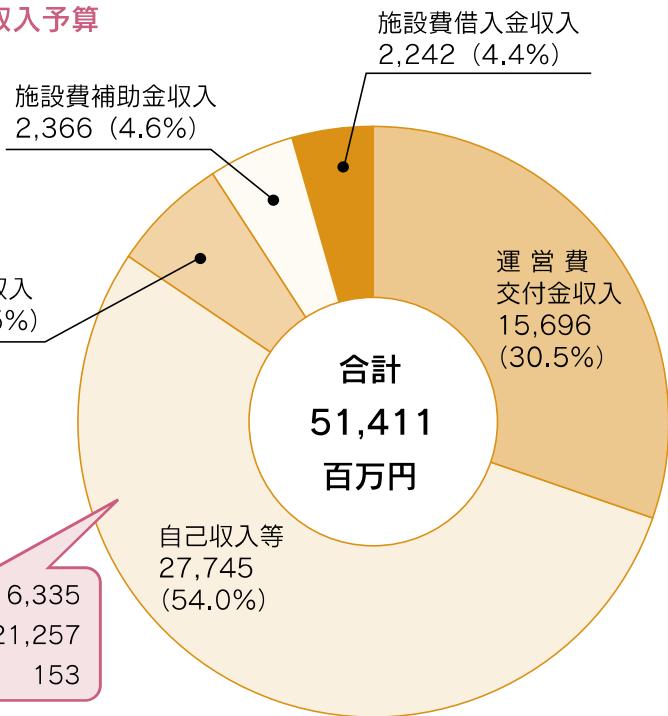
単位：百万円

| 事 項 | 収 入 額 |
|----------|--------|
| 運営費交付金収入 | 15,696 |
| 自己収入等 | 27,745 |
| 受託事業等収入 | 3,362 |
| 施設費補助金収入 | 2,366 |
| 施設費借入金収入 | 2,242 |
| 合 計 | 51,411 |

寄附金収入
1,823
産学連携等研究収入
1,539

学生納付金
6,335
附属病院収入
21,257
雑収入
153

収入予算



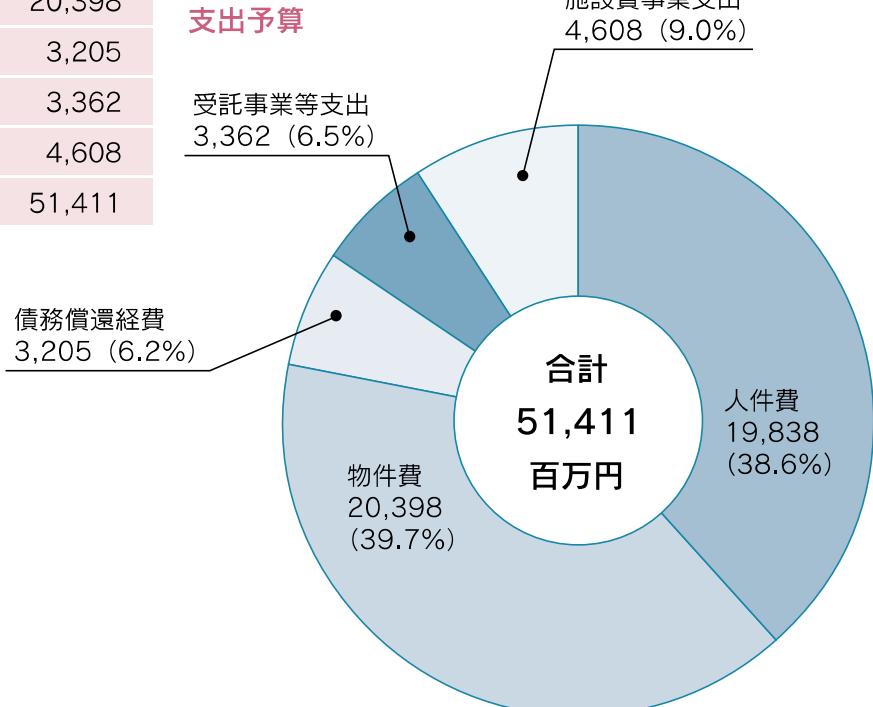
支出予算

単位：百万円

| 事 項 | 支 出 額 |
|---------|--------|
| 人件費 | 19,838 |
| 物件費 | 20,398 |
| 債務償還経費 | 3,205 |
| 受託事業等支出 | 3,362 |
| 施設費事業支出 | 4,608 |
| 合 計 | 51,411 |

債務償還経費
3,205 (6.2%)

支出予算



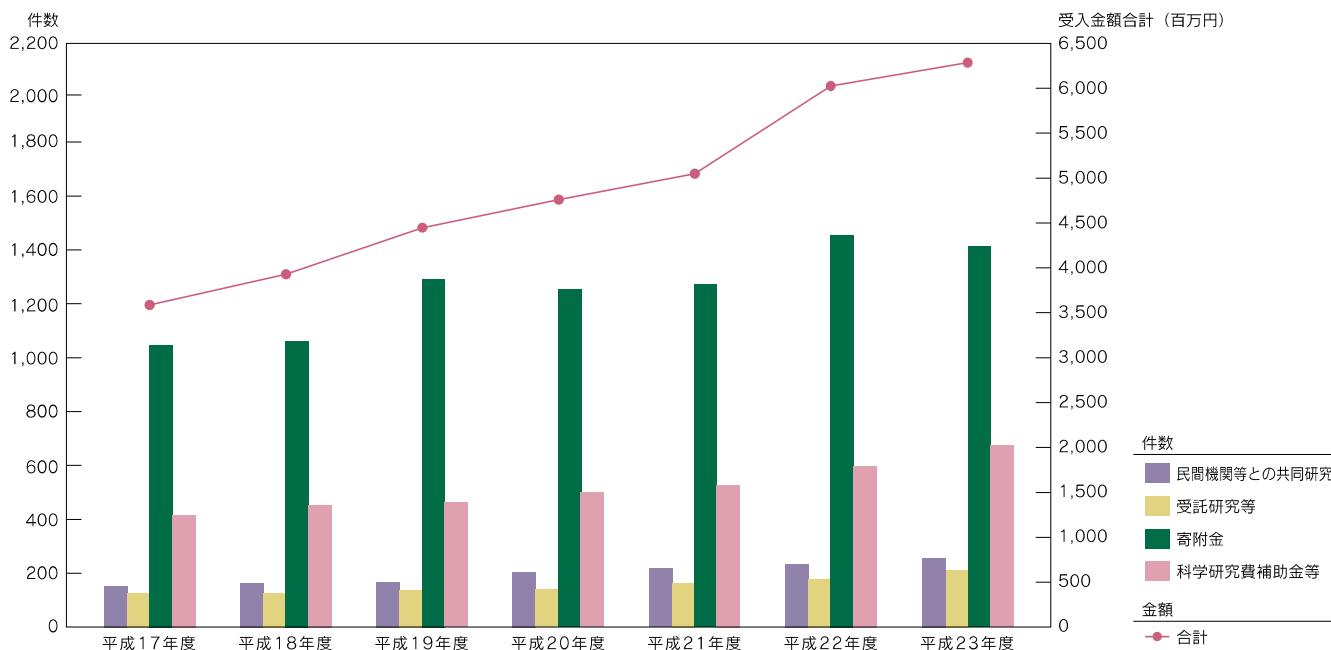
科学研究費補助金採択状況

(平成23年度 執行見込額)

| 種別 | 件数 | 金額(千円) |
|----------------|-----|-----------|
| 新学術領域研究(領域提案型) | 35 | 509,052 |
| 新学術領域研究(課題提案型) | 2 | 4,171 |
| 特定領域研究 | 6 | 33,100 |
| 基盤研究(S) | 4 | 96,540 |
| 基盤研究(A) | 18 | 187,364 |
| 基盤研究(B) | 68 | 351,467 |
| 基盤研究(C) | 267 | 382,625 |
| 挑戦的萌芽研究 | 63 | 118,794 |
| 若手研究(S) | 2 | 24,883 |
| 若手研究(A) | 8 | 70,730 |
| 若手研究(B) | 121 | 197,967 |
| 研究活動スタート支援 | 10 | 15,366 |
| 研究成果公開促進費 | 1 | 700 |
| 特別研究員奨励費 | 37 | 27,200 |
| 総計 | 642 | 2,019,959 |

間接経費を含む。千円未満は四捨五入。

外部資金等受入状況



| | 民間機関等との共同研究 | | 受託研究等 | | 寄附金 | | 科学研究費補助金等 | | 合計 金額(千円) |
|--------|-------------|---------|-------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| | 件数 | 金額(千円) | 件数 | 金額(千円) | 件数 | 金額(千円) | 件数 | 金額(千円) | |
| 平成17年度 | 149 | 248,932 | 127 | 799,159 | 1,120 | 1,068,162 | 426 | 1,534,201 | 3,650,454 |
| 平成18年度 | 162 | 280,397 | 126 | 782,534 | 1,131 | 1,100,367 | 454 | 1,846,738 | 4,010,036 |
| 平成19年度 | 176 | 322,753 | 130 | 1,197,121 | 1,286 | 1,211,178 | 466 | 1,784,457 | 4,515,509 |
| 平成20年度 | 204 | 346,947 | 139 | 1,145,421 | 1,245 | 1,419,462 | 498 | 1,827,264 | 4,739,094 |
| 平成21年度 | 212 | 249,108 | 155 | 1,146,055 | 1,256 | 1,610,660 | 533 | 2,262,968 | 5,268,791 |
| 平成22年度 | 227 | 321,015 | 178 | 1,518,359 | 1,452 | 1,717,616 | 599 | 2,528,118 | 6,085,108 |
| 平成23年度 | 243 | 384,620 | 203 | 1,475,526 | 1,401 | 1,799,194 | 678 | 2,642,832 | 6,302,172 |

※科学技術振興調整費を含む。

※寄附講座分は含む。

※熊本大学基金は含まない。※特別研究員奨励費は除く。

主な競争的資金採択状況

グローバルCOEプログラム

| プログラム名称 | 実施期間 | 拠点リーダー | |
|--------------------|-----------|----------|------------|
| エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点 | 平成20~24年度 | 満屋 裕明 教授 | エイズ学研究センター |
| 衝撃エネルギー工学グローバル先導拠点 | 平成20~24年度 | 秋山 秀典 教授 | 大学院自然科学研究科 |

科学技術システム改革事業(旧科学技術振興調整費)

| 事業名 | プログラム名称 | 実施期間 |
|----------------------|----------------------|-----------|
| ポストドクター・インターンシップ推進事業 | 異分野融合型イノベーション推進人材の育成 | 平成21~25年度 |
| 女性研究者養成システム改革加速 | バッファリングによる女性研究者養成の加速 | 平成22~26年度 |
| 戦略的環境リーダー育成拠点形成 | 地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点 | 平成22~26年度 |

最先端研究基盤事業

| プログラム名称 | 実施期間 | 研究代表者 |
|-----------------|-----------|---------------------------|
| ゲノム機能医学研究環境整備事業 | 平成22~24年度 | 山村 研一 教授 生命資源研究・支援センター |

最先端・次世代研究開発支援プログラム

| プログラム名称 | 実施期間 | 研究代表者 | |
|--|-----------|----------|------------|
| 生活習慣病とがんの共通分子病態解明による健康長寿社会実現を目指した基盤研究 | 平成22~25年度 | 尾池 雄一 教授 | 大学院生命科学研究部 |
| ヒトiPS細胞から脛β細胞の分化誘導 | 平成22~25年度 | 糸 昭苑 教授 | 発生医学研究所 |
| 次世代オミックス研究分野の創造: ヒトtRNA修飾の解析と2型糖尿病発症リスク | 平成22~25年度 | 富澤 一仁 教授 | 大学院生命科学研究部 |
| タンパク質絶対発現量プロファイルを基盤とする次世代がん診断技術の創出 | 平成22~25年度 | 大槻 純男 教授 | 大学院生命科学研究部 |

再生医療の実現化プロジェクト(JST)

| プロジェクト名称 | 実施期間 | 研究代表者 | |
|--------------------------------|-----------|---------|---------|
| iPS細胞から脛β細胞への分化制御と糖尿病再生医療の基盤開発 | 平成20~24年度 | 糸 昭苑 教授 | 発生医学研究所 |

戦略的創造研究推進事業CREST(JST)

| プログラム名称 | 実施期間 | 研究代表者 | |
|--|-----------|----------|---------------|
| 地域水循環機構を踏まえた地下水持続利用システムの構築 | 平成22~27年度 | 嶋田 純 教授 | 大学院自然科学研究科 |
| iPS細胞による肝臓ヒト化モデルの構築と治療実験 | 平成22~27年度 | 山村 研一 教授 | 生命資源研究・支援センター |
| iPS細胞由来の樹状細胞とマクロファージを用いた医療技術の開発 | 平成20~25年度 | 千住 覚 准教授 | 大学院生命科学研究部 |
| iPS細胞からの間葉系・造血幹細胞への分化誘導法の開発と分化の分子機構の解析 | 平成21~26年度 | 江良 択実 教授 | 発生医学研究所 |
| ナノシートから構築する高機能ナノ構造体 | 平成21~26年度 | 松本 泰道 教授 | 大学院自然科学研究科 |
| 高次エピゲノム機構の作動原理と医学的意義の解明 | 平成23~29年度 | 中尾 光善 教授 | 発生医学研究所 |

技術協力プロジェクト(JICA)

| プロジェクト名称 | 実施期間 | プロジェクト総括 | |
|----------------------------------|-----------|----------|------------|
| ホーチミン工科大学地域連携機能強化プロジェクト・フェーズ2 | 平成21~24年度 | 宇佐川 毅 教授 | 大学院自然科学研究科 |
| スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画プロジェクト・フェーズ2 | 平成23~26年度 | 宇佐川 毅 教授 | 大学院自然科学研究科 |

教育改革プログラム

| 事業名 | プログラム名称 | 実施期間 | 申請部局 |
|-----------------------|---|-----------|-----------|
| 特色ある大学教育支援プログラム | IT環境を用いた自立学習支援システム | 平成15~18年度 | 学務部 |
| | 学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育 | 平成16~19年度 | 学務部 |
| | 工学教育から発信する大学教育の質保証 | 平成18~20年度 | 工学部 |
| 法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム | サイバー・クリニックシステムの構築 -21世紀の司法を担う法曹養成に向けて-（単独） | 平成16~18年度 | 法曹養成研究科 |
| | 九州三大学連携法曹養成プロジェクト（連携） | 平成16~18年度 | 法曹養成研究科 |
| | 実務技能教育教材共同開発共有プロジェクト（連携） | 平成16~18年度 | 法曹養成研究科 |
| 魅力ある大学院教育イニシアティブ | DDSスペシャリスト養成プログラム | 平成17~18年度 | 薬学教育部 |
| | 異分野融合能力をもつ未来開拓型人材育成 | 平成18~19年度 | 自然科学研究科 |
| | エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム | 平成18~19年度 | 医学教育部 |
| 大学・大学院における教員養成推進プログラム | 不登校の改善・解決に資する教育力の養成 | 平成17~18年度 | 教育学研究科 |
| 大学教育の国際化推進プログラム | エキスパート・シェアリングの展開と実践 | 平成17年度 | 学術研究協力部 |
| | ラーナーオートノミーを育てる英語教育改革 | 平成18年度 | 学術研究協力部 |
| 現代的教育ニーズ取組支援プログラム | eIこころ学習プログラムの開発 | 平成18~20年度 | 教育学部 |
| 先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム | 次世代情報化社会を牽引するICTアーキテクト育成プログラム（連携） | 平成18~21年度 | 自然科学研究科 |
| 大学教育の国際化推進プログラム | 熊本大学長期海外留学支援プログラム | 平成19~22年度 | 研究・国際部 |
| がんプロフェッショナル養成プラン | 九州がんプロフェッショナル養成プラン（連携） | 平成19~23年度 | 医学教育部 |
| 専門職大学院等教育推進プログラム | ローセンターを活用した臨床教育の高度化（単独） | 平成19~20年度 | 法曹養成研究科 |
| | 実務技能教育指導要綱作成プロジェクト（連携） | 平成19~20年度 | 法曹養成研究科 |
| | 九州・沖縄連携実習教育高度化プロジェクト（連携） | 平成19~20年度 | 法曹養成研究科 |
| | 法科大学院を通じた研究者等の連携一貫教育（連携） | 平成20~21年度 | 法曹養成研究科 |
| 大学院教育改革支援プログラム | IT時代の教育イノベーター育成プログラム | 平成19~21年度 | 社会文化科学研究科 |
| | 大学院科学技術教育の全面英語化計画 | 平成19~21年度 | 自然科学研究科 |
| | 創薬研究者養成プログラム | 平成19~21年度 | 薬学教育部 |
| | 臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践 | 平成20~22年度 | 医学教育部 |
| 戦略的大学連携支援事業 | スーパー連携大学院構想：産学官の広域連携を通じたイノベーション博士人材の育成（連携） | 平成20~22年度 | 自然科学研究科 |
| 大学病院連携型高度医療人養成推進事業 | 中九州三大学病院合同専門医養成プログラム（連携） | 平成20~24年度 | 医学部附属病院 |
| | 多極連携型専門医・臨床研究医育成事業（連携） | 平成20~24年度 | 医学部附属病院 |
| 質の高い大学教育推進プログラム | エコファーマを担う薬学人育成プログラム | 平成20~22年度 | 薬学部 |
| | 学生主導型ゼミによる地域活性化人材の育成（連携） | 平成20~22年度 | 法学部 |
| 理数学生応援プロジェクト | 高・大・大学院連携型理数学生ステップ・アップ・プログラム | 平成21~24年度 | 理・工学部 |
| 組織的な大学院教育改革推進プログラム | イノベーション創出のための大学院教養教育 | 平成21~23年度 | 自然科学研究科 |
| 大学教育推進プログラム | 学習成果に基づく学士課程教育の体系的構築 | 平成21~23年度 | 全学 |

所属及び申請部局等は、申請当時の名称。

土地・建物面積

土地・建物面積

| 区分 | 土地(m ²) | 建物延面積(m ²) |
|----------------|---------------------|------------------------|
| 黒髪北地区 | 170,103 | 69,952 |
| 文学部・法学部・社文・法曹 | | 12,808 |
| 教育学部 | | 15,982 |
| 附属図書館 | | 8,807 |
| 学内共同教育研究施設等 | | 16,695 |
| その他 | | 15,660 |
| 教育学部東教場 | 26,375 | 5,901 |
| 教育学部 | | 1,758 |
| 教育学部附属特別支援学校 | | 4,143 |
| 黒髪南地区 | 115,000 | 93,713 |
| 理学部 | | 13,048 |
| 工学部 | | 46,554 |
| 自然科学研究科 | | 16,969 |
| 学内共同教育研究施設等 | | 9,022 |
| 事務局 | | 4,082 |
| その他 | | 4,038 |
| 本荘地区 | 107,551 | 159,110 |
| 医学部 | | 40,123 |
| 医学部附属病院 | | 97,247 |

| 区分 | 土地(m ²) | 建物延面積(m ²) |
|-------------------------------------|---------------------|------------------------|
| 発生医学研究所 | | 7,070 |
| エイズ学研究センター | | 2,165 |
| 動物資源開発研究施設 | | 8,342 |
| 遺伝子実験施設 アイソトープ総合施設 | | 4,163 |
| 九品寺地区 | 25,761 | 14,072 |
| 医学部 | | 13,774 |
| こばと保育園 | | 298 |
| 大江地区 | 51,264 | 17,443 |
| 薬学部 | | 17,169 |
| その他 | | 274 |
| 京町地区 | 51,547 | 13,128 |
| 教育学部附属小学校 | | 7,269 |
| 教育学部附属中学校 | | 5,859 |
| 教育学部附属幼稚園 | 4,632 | 1,006 |
| 大江総合運動場 | 39,752 | 3,734 |
| 合津マリンステーション | 4,903 | 1,653 |
| イノベーション推進機構 (地域共同ラボラトリー) | (19,945) | 2,085 |
| その他 | 63,112 | 27,927 |
| 合計 | 660,000 | 409,724 |



位置図



1 黒髪地区、黒髪南地区、教育学部東教場

(事務局、附属図書館、文、教育、法、理、工、大教研七、社文科研、自然科研等)

◎JR 熊本駅から
産交バス：楠団地、武蔵ヶ丘等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車

◎JR 上熊本駅から
都市バス：第一環状線、昭和町線（子飼橋経由）「子飼橋」下車、徒歩10分

◎JR 竜田口駅から
産交バス：交通センター行き「熊本大学前」下車

◎交通センターから（12、13番のりば）
産交バス：楠団地、武蔵ヶ丘、大津行き等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車



2 本荘・九品寺地区

(医学部・附属病院等)

◎JR 熊本駅から
都市バス：第一環状線等（大学病院・大江渡鹿経由）「大学病院前」下車

◎交通センターから（3番のりば）
都市バス：八王寺環状線、済生会病院・野越団地行き「大学病院前」下車

3 大江地区

(薬学部等)

◎JR 熊本駅から
市電：健軍行き「味噌天神前」下車、徒歩5分

◎交通センターから（26～32番のりば）
市営バス：小峯、若葉校行き等（県庁経由）「味噌天神前」下車、徒歩5分
産交バス：木山、沼山津、武蔵ヶ丘行き等（健軍・県庁経由）「味噌天神前」下車、徒歩5分
熊本バス：御船、甲佐、城南等行き（健軍・県庁経由）「味噌天神前」下車、徒歩5分

◎JR 新水前寺駅から
徒歩10分



4 京町地区 (附属小学校・附属中学校)

5 城東地区 (附属幼稚園)

6 学生寄宿舎、国際交流会館

7 大江総合運動場

8 合津マリンステーション

9 地域共同ラボラトリー

主要施設等配置図

【黒髪北・南地区 教育学部東教場】

■ 黒髪北地区

〒860-8555
熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
TEL.096 (344) 2111

- 1 教育学部
- 2 愛work
- 3 知命堂（宿泊施設）
- 4 くすの木会館
- 5 文学部、法学院
社会文化科学研究科、
法曹養成研究科
- 6 五高記念館【国指定重要文化財】
- 7 化学実験場【国指定重要文化財】
- 8 全学教育棟、共用棟黒髪6、
国際化推進センター、学生支援部
- 9 グラウンド（武田原）
- 10 体育会部室
- 11 体育館
- 12 プール
- 13 文化部室
- 14 学生会館、福利施設
- 15 赤門【国指定重要文化財】
- 16 共用棟黒髪5（永青文庫研究センター）
- 17 保健センター
- 18 附属図書館
- 19 黒髪北門衛所
- 20 北地区食堂
- 21 環境安全センター

■ 黒髪南地区

〒860-8555
熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL.096 (344) 2111

- 22 共用棟黒髪4
- 23 総合情報基盤センター
- 24 事務局本館【登録有形文化財】
- 25 黒髪南門衛所
- 26 共用棟黒髪7
- 27 理学部1・2号館
- 28 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟
- 29 理学部3号館
- 30 理学部4号館
- 31 自然科学研究科研究棟
- 32 自然科学研究科実験棟
- 33 工学部研究棟 I
- 34 工学部1号館
- 35 工学部2号館
- 36 共用棟黒髪3
- 37 沿岸域環境科学教育研究センター
- 38 共用棟黒髪2
- 39 工学部研究資料館【国指定重要文化財】
- 40 工学部研究棟Ⅲ
- 41 (黒髪) 総合研究棟
- 42 工学部百周年記念館
- 43 共用棟黒髪1
- 44 工学部研究棟 II - 2
- 45 工学部9号館
- 46 機械実習工場
- 47 ものづくり実習室
- 48 研究実験棟
- 49 インキュベーションラボラトリ
- 50 ベンチャービジネスラボラトリ、
衝撃・極限環境研究センター
- 51 黒髪地区RII施設
- 52 工学研究機器センター
- 53 埋蔵文化財調査センター
- 54 FORICO(南地区福利施設)
- 55 南地区食堂
- 56 先進マグネシウム国際研究センター

■ 教育学部東教場

〒860-0862
熊本市中央区黒髪5丁目17番1号
TEL.096 (342) 2956

- 57 附属特別支援学校
- 58 旧体育館
- 59 運動場
- 60 プール
- 61 教育学部 東教室
- 62 附属特別支援学校体育館





【大江地区】

■大江地区

〒862-0973 熊本市中央区大江本町5番1号
TEL.096 (344) 2111

- 1 薬学部
- 2 共同実験棟
- 3 大江地区RI施設
- 4 薬学部実験研究棟
- 5 大学院実験研究棟
- 6 育薬フロンティアセンター
- 7 薬学部講義棟
- 8 機器分析施設
- 9 (大江) 総合研究棟
- 10 蕃滋館(福利施設)
- 11 体育館
- 12 薬用資源エコフロンティアセンター(薬用植物園)
- 13 宮本記念館
- 14 職員宿舎
- 15 グラウンド

8 キャンパス

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

財政

キャンパス

熊本大学
ユバニクスシステム 沿革



【京町地区】

■附属小学校・附属中学校 (附属教育実践総合センター)

〒860-0081 熊本中央区京町本丁5番12号
(小学校) TEL.096 (356) 2492
(中学校) TEL.096 (355) 0375
(教育実践総合センター) TEL.096 (325) 3282

- 1 附属小学校
- 2 給食センター
- 3 附属小学校体育館
- 4 附属小学校グラウンド
- 5 附属小学校プール
- 6 附属中学校
- 7 コンピュータ棟
- 8 附属中学校体育館
- 9 附属中学校グラウンド
- 10 附属中学校プール
- 11 附属教育実践総合センター

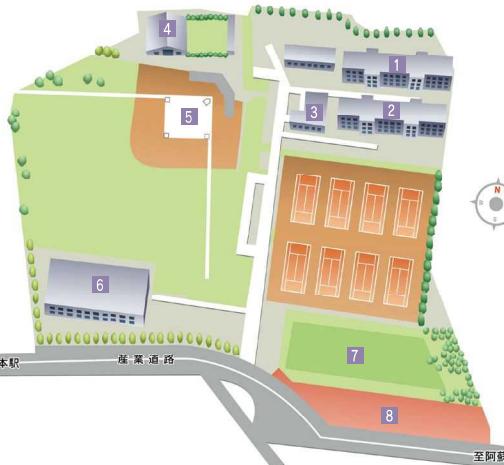


【城東地区】

■附属幼稚園

〒860-0846 熊本中央区城東町5番9号
TEL.096 (352) 3483

- 1 附属幼稚園
- 2 保育室 A棟
- 3 保育室 B棟
- 4 運動場
- 5 プール



【大江総合運動場】

■大江総合運動場

〒862-0970 熊本中央区渡鹿4丁目1番1号
TEL.096 (372) 4241

- 1 合宿研修棟
- 2 部室棟
- 3 管理棟
- 4 弓道場
- 5 野球場
- 6 体育館
- 7 アーチェリー場
- 8 自動車部練習場



【合津マリンステーション】

■合津マリンステーション

〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061番
TEL.0969 (56) 0277

- 1 研究飼育棟
- 2 研究実習棟
- 3 研究宿泊棟



【地域共同ラボラトリー】

■地域共同ラボラトリー

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原 2081の7
TEL.096 (286) 1212

- 1 地域共同ラボラトリー
- 2 遺心力試験室
- 3 駐車場

9 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

五高記念館は国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとなっています。このほかにも、重要文化財等の赤煉瓦建物群や登録文化財となっている建物、また、他のキャンパスで保存・活用されている施設があり、これらの建物・施設・資料等から成る熊本大学博物館の実現を目指しています。

五高記念館(国指定重要文化財)

《黒髪北地区》URL <http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp/>

明治20年、九州における当時の最高学府として第五高等中学校(明治27年に第五高等学校と改称)が設置され、嘉納治五郎、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)、夏目漱石など著名人が教鞭をとりました。五高記念館は、第五高等中学校の教室として明治22年に完成以来、120年を経て、今なお優美な姿をとどめています。館内では五高関係史・資料を展示した常設展や企画展をご覧いただけます。

| | |
|------|--|
| 休館日 | 毎週火曜日、年末年始 (3月~11月は祝日も開館します) (本学の都合上、臨時に休・開館する場合があります) |
| 開館時間 | 午前10時~午後4時 (入館は午後3時30分まで) |
| 入館料 | 無料 |



▲五高記念館(国指定重要文化財)



▲平成19年10月10日に行われた開校120周年記念式典の様子



▲復原教室



▲入学試験問題

熊薬ミュージアム(熊薬同窓会館)

《大江地区》URL <http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/museum/>

開学100年以上の歴史をもつ薬学部に関する貴重な資料や珍しい実験器具の展示をはじめ、くすりの知識などを紹介する様々なコーナーを設置しています。



▲熊薬ミュージアム(熊薬同窓会館)



▲資料展示室



▲古書
▲調剤器のいろいろ

9 熊本大学ユニバーシティ・ミュージアム

表門(国指定重要文化財) 《黒髪北地区》

第五高等中学校の表門は、明治22年に熊本市古城町の仮校舎から現在の場所へ移転して以来、正門として使用されました。通称「赤門」と親しみを込めて呼ばれ、現在は本学北キャンパスの入口となっています。



化学実験場(国指定重要文化財) 《黒髪北地区》

この建物は、フランスで建築を学んだ山口半六の設計によるもので、明治22年に完成しました。西側に廊下を設けることで熊本の強い西日を避けるなどの工夫が施され、南側には特徴ある階段教室が設けられています。



▲階段教室

工学部研究資料館(国指定重要文化財)

《黒髪南地区》

旧熊本高等工業学校の機械工場として明治41年に完成し、大学に引き継がれた際に工学部中央工場と改称し、昭和45年に新工場ができるまで実験工場として使用されました。また、機械技術に関わる歴史的遺産を次世代に伝えようと平成19年に設けられた日本機械学会の「機械遺産」に同年、館内の工作機械群とともに認定されました。

下記の開館日はもちろん、オープンキャンパスや大学祭でも、すべての機械を動かして見学していただいています。

| | |
|-----|-------------------|
| 開館日 | 毎月第3金曜日 午後1時～午後4時 |
| 入館料 | 無料 |



山崎記念館(登録有形文化財)

《本荘・九品寺地区》

医学部の中興の祖と称えられる山崎政董博士の功績を記念して、昭和6年(1931)に建設されました。内部を一般公開し未永く保存するため、平成18年(2006)、中央診療棟新築の際、建物ごと48メートル移動させました。



▲山崎正董博士像



沿革略年表

| | | | | |
|--------|--|--------|---|--|
| S57. 4 | ・医学部附属中毒研究施設及び附属免疫医学研究施設を廃止し、附属免疫医学研究施設設置 | | | ・工学研究科土木工学専攻、建築学専攻及び環境建設工学専攻を土木環境工学専攻及び建築学専攻に改組 |
| S58. 4 | ・文学研究科地域科学専攻設置 ・工学研究科情報工学専攻設置 | H 5. 4 | | ・理学部地学科を地球科学科に改組 |
| S59. 4 | ・医学部附属遺伝医学研究施設設置 ・体質医学研究所廃止 | H 6. 4 | | ・医学進学課程廃止 |
| S60. 4 | ・薬学部薬剤学科及び製薬学科を改組し、薬学科設置 ・薬学研究科医療薬科学専攻(博士課程)設置(薬剤学専攻、製薬学専攻を改組) | . | 6 | ・理学研究科生物学専攻を生物化学専攻に改組 ・遺伝子実験施設設置 ・アイソトープ総合センター設置 |
| S61. 3 | ・法文学部廃止 ・教育専攻科廃止 | H 7. 4 | | ・留学生センター設置 |
| . | ・教育学研究科修士課程(学校教育専攻、障害児教育専攻、教科教育専攻)設置 ・工学部電気工学科、電子工学科及び情報工学科を電気情報工学科に、工業化学科及び合成化学科を応用化学科に改組 ・工学研究科生産科学専攻(博士課程)設置 | H 8. 4 | | ・工学部土木環境工学科、建築学科、材料開発工学科、機械工学科、電気情報工学科及び応用化学科を環境システム工学科、知能生産システム工学科、電気システム工学科、数理情報システム工学科及び物質生命化学科に改組 ・教養部廃止 |
| S62. 4 | ・理学研究科環境科学専攻(博士課程)設置 ・工学部資源開発工学科、金属工学科を材料開発工学科に、機械工学科、生産機械工学科を機械工学科に改組 | H 9. 3 | . | ・文学部哲学科及び史学科を人間科学科及び歴史学科に改組 ・教育学部生涯スポーツ福祉課程設置 |
| S62. 5 | ・地域共同研究センター設置 | | 4 | ・法学部法律学科を法学科及び公共政策学科に改組 ・理学部数学科、物理学科、化学科、地球科学科及び生物科学科を数理科学科、物理科学科、物質化学科、地球科学科、生物科学科及び環境理学科に改組 |
| S63. 4 | ・教育学部附属教育工学センターを附属教育実践研究指導センターに改組 ・工学部土木工学科、建築学科及び環境建設工学科を改組し、土木環境工学科、建築学科設置 ・自然科学研究科博士課程(生産科学専攻、システム科学専攻、環境科学専攻)設置(理学研究科環境科学専攻(博士課程)及び工学研究科生産科学専攻(博士課程)を振替) | H10. 3 | | ・理学研究科地学専攻を地球科学専攻に改組 ・エイズ学研究センター設置 ・大学教育研究センター(学内措置)設置 |
| H 2. 4 | ・工学研究科電気工学専攻、電子工学専攻及び情報工学専攻を電気情報工学専攻に、工業化学科専攻及び合成化学科専攻を応用化学科に改組 ・理学部生物学科を生物科学科に改組 | . | 4 | ・理学研究科修士課程を廃止 ・工学研究科修士課程を廃止 ・附属図書館工学部分室を廃止 |
| . | ・総合情報処理センター設置 | H10. 4 | | ・薬学研究科博士課程に臨床薬学専攻を設置、医療薬科学専攻を薬科学専攻に改組 ・自然科学研究科に博士前期課程として物質科学専攻、材料システム専攻、機械システム専攻、数理科学・情報システム専攻、電気システム専攻、自然システム専攻、環境土木工学専攻、建築学専攻を設置し、博士後期課程として物質・生命科学専攻を設置 |
| H 3. 4 | ・工学研究科資源開発工学専攻及び金属工学専攻を材料開発工学専攻に、機械工学専攻及び生産機械工学専攻を機械工学専攻に改組 ・機器分析センター設置 | | | ・医学部附属遺伝発生医学研究施設トランスジェニック実験室及び医学部附属動物実験施設を廃止し、動物資源開発研究センター設置 |
| H 4. 4 | ・医学部附属免疫医学研究施設及び附属遺伝医学研究施設を廃止し、附属遺伝発生医学研究施設設置 ・医学研究科脳・免疫統合科学系専攻(博士課程)設置 | H11. 4 | | ・自然科学研究科博士後期課程生産科学専攻及びシステム科学専攻を生産システム科学専攻及びシステム情報科学専攻に改組 ・工学部附属衝撃エネルギー実験所及び理学部極低温装置室を整備統合し、衝撃・極限環境研究セ |

沿革略年表

| | | | |
|---------------|---|---------|--|
| | センターを設置 | | 養教育実施機構(学内措置)設置 |
| H12. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全センター(学内措置)設置 ・教育学部地域共生社会課程設置 ・医学部附属遺伝発生医学研究施設を廃止し、発生医学研究センター設置 ・教育学研究科養護教育専攻設置 ・自然科学研究科博士後期課程環境科学専攻を環境共生科学専攻に改組 | H15. 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育学部特別教科(看護)教員養成課程、医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科設置 |
| H13. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・文学研究科哲学専攻、地域科学専攻、史学専攻、国文学専攻、英文学専攻及び独文学専攻を人間科学専攻、地域科学専攻、歴史学専攻及び言語文学専攻に改組 ・法学研究科法律学専攻を法学専攻及び公共政策専攻に改組 ・薬学研究科分子機能薬学専攻(博士課程)設置 ・生涯学習教育研究センター設置 ・沿岸域環境科学教育研究センター設置(理学部附属臨海実験所の転換) ・教育学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組 ・環境保全センター(学内措置)を環境安全センター(学内措置)に改称 ・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー設置 ・情報プラザ設置 | H16. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・設置者が国から国立大学法人へ変更 ・法学部法学科及び公共政策学科を法学科に改組 ・理学部数理科学科、物理科学科、物質化学科、地球科学科、生物科学科、環境理学科を理学科に改組 ・法学研究科法学専攻及び公共政策専攻を法学公共政策学専攻に改組 ・法曹養成研究科設置 ・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーをベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに改称 ・健康管理センターを保健センターに改称 ・政策創造研究センター設置 |
| H14. 4 .10 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科修士課程(医科学専攻)設置 ・社会文化科学研究科博士課程(文化学専攻、公共社会政策学専攻)設置 ・総合情報処理センターを総合情報基盤センターに改組 ・インキュベーション施設設置 | H17. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・文学部人間科学科、地域科学科、歴史学科、文学科を総合人間学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科に改組 ・工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター設置 ・工学部環境システム工学科、知能生産システム工学科、電気システム工学科、数理情報システム工学科、物質生命化学科を社会環境工学科、建築学科、マテリアル工学科、機械システム工学科、情報電気電子工学科、数理工学科、物質生命化学科に改組 ・薬学部薬科学科を薬学科、創薬・生命薬科学科に改組 |
| H15. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学薬学研究部設置 ・医学研究科修士課程、博士課程を廃止し、医学教育部修士課程(医科学専攻)、医学教育部博士課程(生体医科学専攻、病態制御額専攻、臨床医学専攻、環境社会医学専攻)設置 ・薬学研究科博士課程を廃止し、薬学教育部博士課程(分子機能薬学専攻、生命薬科学専攻)設置 ・薬学部附属薬用植物園を廃止し、薬学教育部附属薬用植物園設置 ・機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープ総合センター、動物資源開発研究センターを廃止し、生命資源研究・支援センター設置 ・大学教育機能開発総合研究センター設置 ・大学教育研究センター(学内措置)を廃止し、教 | H18. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学院自然科学研究科物質科学専攻、材料システム専攻、機械システム専攻、数理科学・情報システム専攻、電気システム専攻、自然システム専攻、環境土木工学専攻、建築学専攻、生産システム科学専攻、システム情報科学専攻、環境共生科学専攻、物質・生命科学専攻を理学専攻、複合新領域科学専攻、物質生命化学科専攻、マテリアル工学専攻、機械システム工学専攻、情報電気電子工学専攻、社会環境工学専攻、建築学専攻、産業創造工学専攻、環境共生工学専攻に改組 ・薬学部附属創薬研究センター設置 ・社会文化科学研究科修士課程(教授システム学専攻)設置 ・環境安全センターを学内共同教育研究施設として改組 ・法曹養成研究科附属臨床法学教育研究センター設置 ・五高記念館設置 |
| | | . 9 | |
| | | . 12 | |

組織

教育研究等

職員・学生数等

国際交流

社会連携

福利厚生施設

財政

キャンパス

熊本大学
ユバーシティプロジェクト

沿革

沿革略年表

| | | |
|--------|--|--------|
| H19. 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療技術短期大学部廃止 ・大学院先導機構設置 ・生涯学習教育研究センター、政策創造研究センターを廃止し、政策創造研究教育センター設置 ・eラーニング推進機構設置 ・教育学部附属養護学校を教育学部附属特別支援学校に改称 ・自然科学研究科附属総合科学技術共同教育センター設置 | |
| . 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオエレクトリクス研究センター設置 | . 7 |
| H20. 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域共同研究センター、知的財産創生推進本部、インキュベーション施設、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを発展的に再編し、イノベーション推進機構設置 ・文学研究科(修士課程)人間科学専攻、地域科学専攻、歴史学専攻、言語文学専攻、法学研究科(修士課程)法学公共政策学専攻及び社会文化科学研究科(修士課程)教授システム学専攻を社会文化科学研究科(博士課程前期)公共政策学専攻、法学専攻、現代社会人間学専攻、文化学専攻、教授システム学専攻に改組 ・社会文化科学研究科(博士課程)文化学専攻、公共社会政策学専攻を社会文化科学研究科(博士後期課程)人間・社会科学専攻、文化学専攻、教授システム学専攻に改組 ・医学教育部(博士課程)生体医科学専攻、病態制御学専攻、臨床医科学専攻、環境社会医学専攻を医学専攻に改組 ・保健学教育部(修士課程)保健学専攻設置 ・薬学部附属育葉フロンティアセンター設置 ・教育学研究科(修士課程)障害児教育専攻を教育学研究科(修士課程)特別支援教育専攻に改称 ・特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科に改称 | . 10 |
| . 10 | | H23. 6 |
| | | . 8 |
| | | . 10 |
| | | . 12 |
| | | H24. 4 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・国際化推進機構を設置し、留学生センターを国際化推進センターに改組 ・教育学研究科(修士課程)学校教育専攻、特別支援教育専攻、教科教育実践専攻、養護教育専攻及び障害児教育専攻を、教育学研究科(修士課程)学校教育実践専攻、教科教育実践専攻に改組 ・発生医学研究センターを発生医学研究所に改組 ・文学部附属永青文庫研究センター設置 | |
| H21. 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・医学薬学研究部を生命科学研究部に改組 ・自然科学研究科(博士前期課程)数学専攻設置 ・保健学教育部(博士後期課程)保健学専攻を設置 | |
| . 4 | | |
| H22. 1 | | |
| . 4 | | |



国立大学法人 熊本大学

熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1

TEL.096-344-2111(代表)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp>